

Hyperion(R) Enterprise(R)

リリース 6.5.1

始めるには

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise 始めるには, 6.5.1

Copyright © 1991, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 Hyperion Enterprise について	7
Hyperion Enterprise で可能な処理	7
Hyperion Enterprise の機能	7
アプリケーション	8
データの入力と読み込み	9
組織	10
連結	11
連結の詳細	11
データの計算	11
勘定科目一覧とエンティティ一覧	12
コード	13
セキュリティ	13
Hyperion Enterprise 製品セット	13
Hyperion Allocations	14
Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise	14
Hyperion Enterprise 開発者用ツールキット (API)	14
Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ	15
Hyperion Retrieve	15
LedgerLink	15
Statutory Consolidation Engine	15
第 2 章 Hyperion Enterprise デスクトップ	17
デスクトップの概要	17
モジュール	19
デスクトップの機能	20
データの視点バー	20
ツールバー	20
ステータスバー	22
デスクトップ要素の表示／非表示	23
エラーログの表示	23
デスクトップのカスタマイズ	24
データの視点の選択	24

データの視点バーのカスタマイズ	25
データへのアクセス	26
FDM データのドリルバック	27
ユーザ設定変更の定義	27
アプリケーション設定変更の定義	29
システム色の設定	29
パスワードの変更	30
アプリケーションの参照のみモード	30
第 3 章 Hyperion Enterprise での印刷	33
印刷オプションの設定	33
デフォルトのページ書式の変更	33
デフォルトのページ設定の変更	34
デフォルトのラベル設定の変更	34
デフォルトのプリンタの変更	35
Hyperion Enterprise でのプレビュー	35
Hyperion Enterprise での印刷	35
第 4 章 Hyperion Enterprise の使用	37
Hyperion Enterprise の起動	37
Hyperion Enterprise の終了	38
システムメニュー	38
[コントロール] メニュー	39
[ファイル] メニュー	39
[ファイル] メニューの [デスクトップ]	40
[編集] メニュー	41
[表示] メニュー	41
[ナビゲート] メニュー	42
[タスク] メニュー	42
[ウィンドウ] メニュー	43
[ヘルプ] メニュー	43
アプリケーション要素	43
データ種別	44
期間	44
勘定科目	45
エンティティ	45
アプリケーションへのアクセス	45
アプリケーションを開く	46
アプリケーションの追加	46
アプリケーションの除去	47

アプリケーション要素の変更	47
アプリケーション要素を開く	47
アプリケーション要素のコピー	48
アプリケーション要素の削除	48
表の操作	49
セルブロックの選択	50
表のスクロール	50
キーボードショートカット	50
表内の詳細の表示／非表示	51
列幅の変更	53
表内のアプリケーション要素の変更	54
第 5 章 Hyperion Enterprise Web	55
Hyperion Enterprise Web ページ	55
データの視点バー	57
ツールバー	57
Web モジュール	58
Web セッションのタイムアウト	59
アプリケーションへのログオン	60
アプリケーションからのログオフ	60
Web アプリケーションの変更	61
第 6 章 Hyperion Enterprise のヘルプ	63
Hyperion Enterprise マニュアルの使用	63
Hyperion Enterprise ヘルプへのアクセス	64
第 7 章 トラブルシューティング	67
よく尋ねられる質問	67
オンラインヘルプを印刷するにはどうすればいいですか?	67
なぜ緑色のセルにはデータを入力できないのですか?	67
アプリケーションをユーザが使用している間にバックアップできますか?	68
重複したエンティティを持つエンティティ一覧を使ってデータを抽出するとどうなりますか?	68
HYPENT.INI ファイルの設定にはどのようなものがありますか?	68
エラーメッセージ	68
データ種別 [データ種別名] のユーザ [ユーザ名] によってロックされているため、エンティティ [エンティティ名] へのアクセスが拒否されました。	69
勘定科目は使用中のため削除できません。	69
未定義のダイナリンクへの呼び出し	69
削除できません。除去を続けますか?	69

ファイル<エンティティ名>を開くことができません。	70
HPAPP.DAT を開くことができません。	70
エンティティ [エンティティ名] がデータ種別 [データ種別名] のユーザ [ユーザ名] によってロックされているため、仕訳帳を転記／再転記できません。	70
クラスが登録されていません。	70
重複入力はできません：勘定科目	70
エラー	71
GDI.EXE での一般保護障害	71
XXX は無効な Hyperion Enterprise 勘定科目です。	71
仕訳帳 XXXX に区切り文字のない詳細行があります。	71
MACH.DRV エラー	71
この余白設定では印刷可能領域がほとんどありません。	72
MODAPPDLL パラメータなし：OpenApp エラー	72
調整勘定 XXX は算出勘定にはなり得ません。	72
製品のログインに失敗しました。	72
削除する前に、次のロジックからこのデータ種別をメインリンクとして削除してください。	72
レポートエンジンがシステム POV を読み込めませんでした。	73
行見出しが用紙サイズを超えています。	73
ドライブ A で共有違反が発生しました。	73
アプリケーションに複数のユーザが存在します。期別替を実行できません。	73
開いているファイルが多すぎます。	74
仕訳帳<仕訳帳ラベル>を転記／再転記できません。<勘定科目>のデータファイルへの書き込みに失敗しました。	74
アプリケーションを保存できません。	74
データ種別を保存できません。	74
組織を保存できません。	75
Hyperion Enterprise	75
用語集	77
索引	85

1

Hyperion Enterpriseについて

この章の内容

Hyperion Enterprise で可能な処理	7
Hyperion Enterprise の機能	7
Hyperion Enterprise 製品セット	13

Hyperion Enterprise で可能な処理

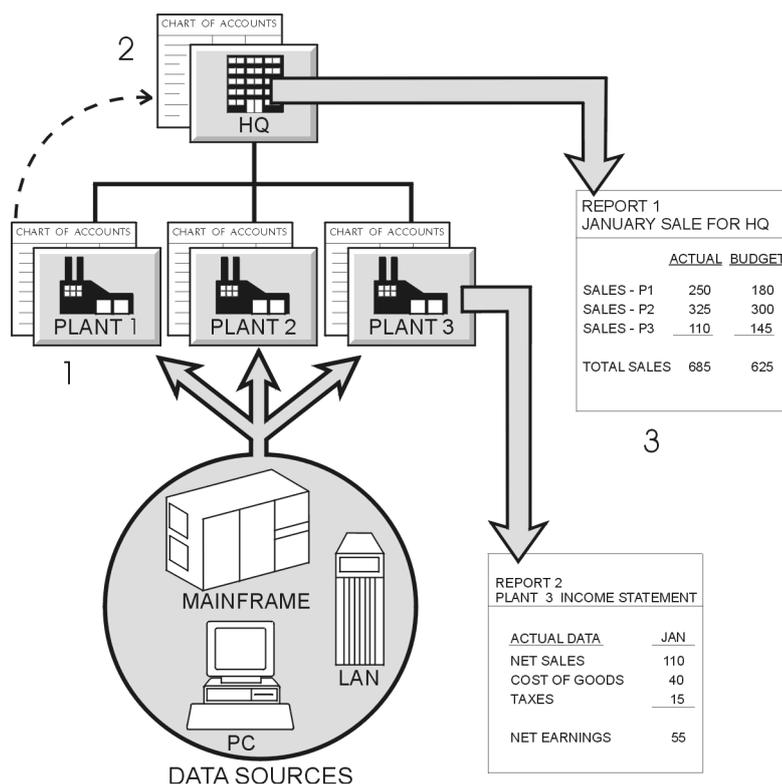
オラクル社の HyperionR EnterpriseR は、高度な管理レポート作成および連結を行うシステムで、グラフィックによるユーザフレンドリーな環境で広範囲にわたる財務管理タスクを処理します。業務に関する情報の収集、連結、分析およびレポート作成に使用できる機能は次のとおりです。

- データの入力、読み込みおよび取得
- 通貨換算
- 会社間消去
- グラフィカルな組織表
- 連動組織構造
- 複数の連結パス
- 強力で柔軟性のあるレポート作成
- Hyperion Retrieve を使用した、Microsoft Excel からの Hyperion Enterprise データへのリンク
- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion Edition データへのドリルバック
- ウィンドウおよびダイアログボックスのオプションで構成される包括的なオンラインヘルプシステムとユーザおよび管理者用マニュアル

Hyperion Enterprise の機能

Hyperion Enterprise では、データの入力、連結およびレポート作成をさまざまな方法で行うことができます。図 1 に、システム機能の概要を示します。

図 1 システムの機能



1. 最下位エンティティにデータを入力または読み込む
2. データを組織の各部門に沿って連結する
3. 組織内の任意の場所にあるデータやテキストをレポートに含める

組織および組織の各エンティティの財務データを入力するには、さまざまなデータソースを使用できます。例えば、データ入力表、仕訳帳またはデータ読み込みを使用して、情報をシステムに入力できます。次に、必要な連結、消去およびその他の計算や操作を実行できます。

Hyperion Enterprise の柔軟なレポート作成機能を利用すれば、システム内のデータを明確で理解しやすい形式で表したカスタムレポートを生成できます。レポートは、最下位エンティティおよび親エンティティの両方のデータに基づいて生成できます。Hyperion Enterprise Reporting でのレポートおよびパッケージの作成と管理については、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』と『Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド』を参照してください。

アプリケーション

アプリケーションは、組織、勘定科目、データ種別など、一緒に使用して財務構造を定義するための要素の集まりです。アプリケーションは必要な数だけ作成できます。例えば、複数の組織の税務データのレポートを作成する 1 つのアプリケーションを設定し、他の組織の証券取引委員会 (Security and Exchange Commission : SEC) データを処理する別のアプリケーションを作成できます。

アプリケーション内の要素を定義するには、グラフィカルユーザインターフェイスを使用するか、これらの要素の定義を含むアプリケーションファイルを読み込むことができます。アプリケーションの定義方法について詳しくは、『Hyperion

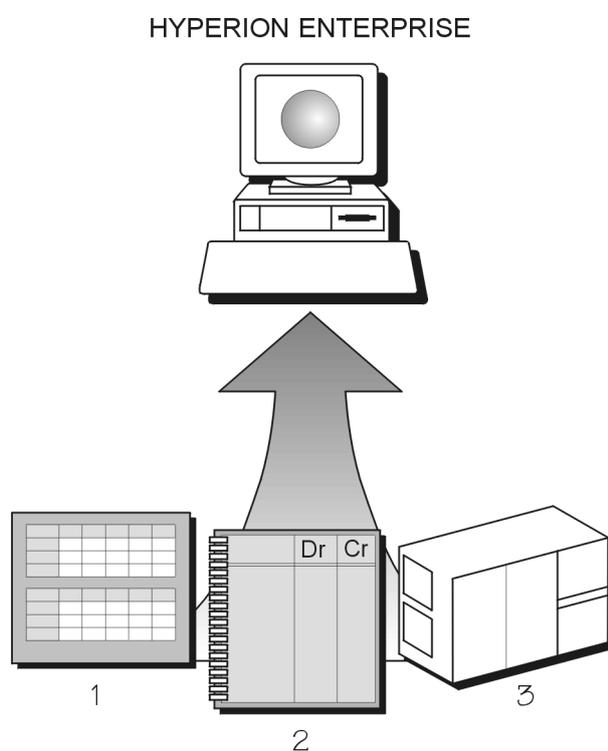
『Enterprise 管理者用ガイド』の「アプリケーションの作成」の章を参照してください。アプリケーションの読み込みおよび抽出の方法については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「アプリケーションの保守」の章を参照してください。

データの入力と読み込み

データ入力表、仕訳帳またはデータベースを使用して、手動でデータをシステムに入力することも、メインフレームシステムなどの外部ソースからデータを読み込むこともできます。

図 2 に、データの入力と読み込みの種類を示します。

図 2 データの入力と読み込みの種類



1. データ入力表を使用してデータを手動で入力する
2. 仕訳帳を使用してデータまたは調整を入力する
3. 外部システムからデータを読み込む

データ入力表

データ入力表は、特定のレポート上のエンティティとデータ種別に対する勘定科目と期間の表です。データ入力表を使ってデータの表示と入力ができます。各データ入力表には、1つまたは2つの勘定科目一覧を含めることができます。例えば、入力勘定科目の一覧と算出勘定科目の一覧を含むデータ入力表を設定し、データの入力時に結果を確認できるようにすることができます。

Hyperion Schedules を使用して Hyperion Enterprise データを入力および変更することもできます。Hyperion Schedules はさらに強力なデータ入力ツールで、レポート

をデータ入力形式として使用します。例えば、列に勘定科目、行にエンティティを含むレポートを作成できます。その後、このレポートを Hyperion Schedules で開き、これらの勘定科目とエンティティのデータを変更できます。データ入力表について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「データ入力表へのデータの入力」の章を参照してください。

仕訳帳

仕訳帳の入力により、監査証跡の管理が可能になります。仕訳帳の入力を行って、仕訳帳の調整が許可されている組織内のレポートエンティティの勘定科目データを調整します。仕訳帳を転記すると、その借方と貸方のエントリが格納されます。仕訳帳について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「仕訳帳の入力」の章を参照してください。

読み込みと抽出

Hyperion Enterprise 内の異なる場所またはアプリケーション間、あるいは Hyperion Enterprise と他のシステム間でデータを転送するには、データベースモジュールの読み込みおよび抽出機能を使用します。例えば、総勘定元帳から Hyperion Enterprise にデータを読み込むことができます。

データの読み込みまたは抽出にはデータ書式を使用して、外部システムのデータをどのように解釈するかを Hyperion Enterprise に指示します。例えば、データ書式でエンティティおよび勘定科目変換表を指定して、Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目を外部システムのエンティティおよび勘定科目と照合できます。ASCII ファイルでのデータの読み込みおよび抽出方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「データの読み込みと抽出」の章を参照してください。

組織

組織は、組織内のエンティティ間の関係を定義するために作成します。1つのアプリケーションで複数の組織構造を作成し、異なるデータを追跡したり、同じデータを異なる方法で追跡したりできます。例えば、データを地域別に追跡する組織と、製品の種類別に追跡する別の組織を作成できます。

連動組織は、ある期間内におけるビジネス構造の変化を追跡します。例えば、エンティティはある期間で1つの親の子になり、次の期間では別の親の子になることができます。

エンティティのグループの親には持株会社を割り当てることができます。構造のグループの親は、持株会社に対して連結されたデータを格納します。持株会社をグループの親から分離すると、次の2種類の方法で個別の報告ができるようになります。

- 持株会社の運営から得た収入を報告できます。
- グループの他のメンバから得た合計の収入を報告できます。

組織、連動組織、および持株会社について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「組織の定義」の章を参照してください。

連結

連結は、子エンティティからデータを収集し、それを親エンティティに集計する処理です。子エンティティにデータを入力するか読み込んだ後、連結を実行してそのデータを組織内で集計します。データの連結時には、標準およびカスタムの連結ロジックと換算ロジックによってデータの計算が行われます。最初の連結後に一部のエンティティのデータを変更する必要がある場合は、影響のあるエンティティと期間のみを再度連結できます。

Hyperion Enterprise は、次の機能によって世界中の財務連結要件を満たしています。

- 期間およびデータ種別ごとの組織の変更の追跡。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「組織の定義」の章を参照してください。
- 親子関係に基づく組織構造の自動作成。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「組織の定義」の章を参照してください。
- 支配比率に基づく連結比率および連結ロジックの自動提案。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「組織の定義」の章を参照してください。
- 分析およびレポート作成用の比率、消去および換算の詳細の格納。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「アプリケーションの作成」の章を参照してください。
- 最高 4 つのパラメータを使用したカスタム関数による特殊な連結要件の処理。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「計算式の定義」の章を参照してください。

連結の詳細

連結詳細を格納してレポートを作成し、連結プロセスの監査証跡を提供できます。連結詳細は、各親子関係に対する次の個別の値で構成されています。

- 換算詳細は、子エンティティからその親の通貨に換算されたデータの結果を表します。
- 比率詳細は、親が所有している子エンティティの換算値の値を表します。
- 消去詳細は、会社間消去後に親に連結される値を表します。
- 親の調整詳細は、子が親に拠出する値に対して行われた、すべての親の仕訳帳調整の合計残高を表します。親の仕訳帳について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「仕訳帳の入力」の章を参照してください。

連結詳細は、比率、消去および調整の値を、換算された子の値に適用した後に親に適用する結果値です。連結詳細のレポート作成について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。

データの計算

勘定科目値を計算し、データを換算および連結する方法をシステムに伝えるには、計算式を使用します。アプリケーションがデータを管理する方法を定義するロジック

クを作成するには、計算式を組み合わせます。システムでは、入力、換算および連結の3種類のロジックを使用します。

注： Hyperion Enterprise の以前の英語版リリースでは、method は logic と呼ばれていました（日本語版ではいずれも「ロジック」）。

入力ロジックは、勘定科目表でシステムが計算を実行する方法を決定します。例えば、Total Sales から Returns を差し引いて Net Sales を求めるなど、特定の勘定科目を算出する入力ロジックを定義できます。1つの入力ロジックには勘定科目表全体を定義できます。

換算ロジックは、連結中に子エンティティの値がその親のデータに換算される方法を決定します。例えば、FASB8 換算に従うエンティティと FASB52 換算に従うエンティティに対してそれぞれ異なる換算ロジックを定義できます。

連結ロジックは、連結中に子エンティティの値が親エンティティに集計される方法を決定します。連結ロジックは、蓄積、消去、再分類などの処理を定義するために使われます。入力ロジック、連結ロジックおよび換算ロジックについては、『Hyperion Enterprise 管理者ガイド』の「計算式の定義」の章を参照してください。

[計算式] ウィンドウには、ロジックを定義し、保守するスクリプトの作成を無用にするグラフィカルユーザインターフェイスが含まれています。ロジックは、スプレッドシートに似たインターフェイスや [関数の貼り付け] メニューコマンドのような機能により、簡単に設定できます。

会社間消去中に他のエンティティの勘定科目に値を配賦する更新ルールを定義できます。システムでは、更新ルールが関連付けられている勘定科目から配賦元の値を抽出し、指定されたエンティティに配賦します。更新ルールについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「計算式の定義」の章を参照してください。

カスタム関数は、最高4つのパラメータを使用して定義できます。カスタム関数は、新しい関数の作成や、複数の既存の関数の組み合わせに使用できます。カスタム関数については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「計算式の定義」の章を参照してください。

計算式を使用して、連動表示勘定科目を定義することもできます。連動表示勘定科目には、値ではなく比率または計算が格納されます。これによって、現在の期間単位に基づいて計算された勘定科目の値を表示できるようになります。連動表示勘定科目を使用すれば、異なる期間単位に対する比率や小計を格納する重複した勘定科目を作成する必要がなくなります。連動表示勘定科目については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「勘定科目の定義」の章を参照してください。

勘定科目一覧とエンティティ一覧

勘定科目やエンティティをグループ化するには、連動一覧および固定一覧を使用できます。連動一覧は、ユーザが指定する選択条件に基づいています。選択条件を満たす勘定科目またはエンティティを追加するか、削除すると、連動勘定科目一覧およびエンティティ一覧が更新されます。

固定一覧には、一覧に手動で割り当てられた勘定科目またはエンティティのみが含まれています。

データ入力やレポート作成では、個別の勘定科目またはエンティティを参照する代わりに一覧を使用できます。例えば、データ入力表やレポートで連動勘定科目一覧を使用して、すべての入力勘定科目のデータを入力し、レポートを作成できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「一覧の定義」の章を参照してください。

コード

勘定科目、エンティティ、ロジックおよび仕訳帳をフィルタして選択するには、コードを追加の識別子として使用できます。アプリケーション要素を定義するときは、既存のコードを各要素に割り当てることができます。コードは [アプリケーション] ウィンドウで定義し、[勘定科目]、[エンティティ]、[計算式] および [仕訳帳] ウィンドウでコードを割り当てます。

コードによって、Hyperion Enterprise データを分類するもう 1 つの方法が追加されます。コードは、一覧、ロジックおよびレポートを作成するための、アプリケーション要素の代替定義として使用できます。例えば、Profit and Loss というコードを使用して、勘定科目をすべて含む連動勘定科目一覧を定義できます。この Profit and Loss コードを勘定科目に割り当てると、その勘定科目が一覧に追加されます。それによって、この一覧を使用してデータを入力し、そのデータのレポートを作成できるようになります。

セキュリティ

Hyperion Enterprise セキュリティは、Hyperion Enterprise アプリケーション内のすべてのタスクやアプリケーション要素の保護に使用できるシステムです。セキュリティシステムは分散されているので、ユーザのアクティビティを制限することなく簡単に保守ができます。ユーザをシステムに追加すると、そのユーザは所属先のユーザグループに基づいて、アクセス保護が可能な項目のクラスへのアクセス権限を継承します。

セキュリティクラスとは、アクセスを制限することができる、アプリケーション内の関連項目の集まりです。例えば、すべての入力勘定科目を 1 つのクラスにまとめ、すべての資産勘定科目を別のクラスとしてまとめることができます。ユーザは、部門、機能、年功またはその他の条件別にグループ化できます。次に、グループおよびユーザに対するセキュリティクラスにアクセス権限を割り当てて、そのセキュリティクラス内の項目に対して可能な操作を定義できます。ユーザとユーザグループ、セキュリティクラス、およびアクセス権限について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「セキュリティの設定」の章を参照してください。

Hyperion Enterprise 製品セット

Hyperion Enterprise は、財務データの管理機能を向上する関連製品と連携しています。Hyperion Enterprise に付属の製品は次のとおりです。

- Hyperion Allocations

- Hyperion AutoPilot32 forHyperion Enterprise
- Hyperion Enterprise 開発者用ツールキット (API)
- Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ
- Hyperion Retrieve
- LedgerLink
- Statutory Consolidation Engine

Hyperion Allocations

Hyperion Allocations では、Hyperion Enterprise アプリケーションのデータをエンティティ、勘定科目および期間全体に配賦できます。データは1つのエンティティから多くの関連エンティティに、主要勘定科目からそのサブ勘定科目に、または1つの期間から期間の範囲に配賦できます。

配賦用のエンティティ、勘定科目、期間およびデータ種別を指定することも、可変のデータの視点を設定し、配賦を実行および転記するセットに応じてそれぞれ異なる配賦関数を作成することもできます。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「Hyperion Allocations」の章を参照してください。

Hyperion AutoPilot32 forHyperion Enterprise

Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise は、オラクル社の一連の Performance Management ソフトウェアタスクを1つのタスクフローに自動化します。作成したタスクフローによって、月次の収益／費用レポートの印刷などの定期的に予定された処理を自動化できます。タスクフローは必要に応じていくつでも作成し、Hyperion Enterprise での操作をカスタマイズできます。Hyperion AutoPilot32 では、データの一括読み込み、一連のデータ種別および組織全体にわたる連結、一連の期間の仕訳帳の転記などの処理を自動化できます。詳しくは、『Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise ガイド』を参照してください。

Hyperion Enterprise 開発者用ツールキット (API)

プログラマやシステム管理者は、Hyperion Enterprise 開発者用ツールキット (API) を使用して Hyperion Enterprise アプリケーションプログラムインターフェイス (API) にアクセスできます。Hyperion Enterprise API によって、あらゆるプログラムから Hyperion Enterprise データへの高レベルのアクセスが可能になります。Hyperion Enterprise 開発者用ツールキットは主に Visual Basic のプログラマを対象としていますが、C 言語に相当する各関数も提供されています。このツールキットは、基本的な関数、高度な関数およびスプレッドシートのアドイン関数の使用方法に加えて、表の ID、関連する表およびクエリ属性に関する情報を提供しています。詳しくは、『Hyperion Enterprise API リファレンスガイド』を参照してください。

Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ

Hyperion Enterprise アプリケーションサーバは、32 ビットの Windows アプリケーションサーバです。Hyperion Enterprise アプリケーションサーバを使用すると、処理はクライアントワークステーションではなくアプリケーションサーバで実行されます。クライアントマシンにおける大量処理は、高レベルのネットワークトラフィックの原因となり、クライアントマシンのパフォーマンスに影響します。

Hyperion Enterprise アプリケーションサーバは、この問題を解決するためにデザインされています。Hyperion Enterprise アプリケーションサーバにより、クライアントワークステーションの既存のハードウェアやソフトウェアをアップグレードせずに、迅速且つ簡単に処理能力を向上することができます。アプリケーションが拡張され、クライアントユーザが増えても、ユーザはクライアントマシンに潜在する処理能力の制約によって拘束されることがありません。

さらに、データがローカルではなくリモートで処理されるため、処理中もワークステーションを使用できます。例えば、データの処理中、Hyperion Enterprise をアイコン化するか閉じることにより、Hyperion Enterprise 以外の処理を実行できます。Hyperion Enterprise アプリケーションサーバについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

Hyperion Retrieve

Hyperion Retrieve を使用すると、Excel ワークシートから Hyperion Enterprise データにアクセスできます。その後スプレッドシートソフトウェアを使用して、データの分析や操作を行い、レポートやグラフを作成できます。Hyperion Retrieve は複数の Hyperion Enterprise アプリケーションで使用できます。Hyperion Retrieve の計算式は、Hyperion Analyst のクエリに含めることができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「Hyperion Retrieve」の章を参照してください。

LedgerLink

LedgerLink は、重要なデータを変換して Hyperion Enterprise にインポートする処理を自動化します。外部の各アプリケーションにはカスタマイズされたテンプレートを設定できます。テンプレートは、Oracle General Ledger などの特定のソフトウェアアプリケーションを対象にできます。それによって、データを含む ASCII ファイルを変更せずに、さまざまな元帳やフィードシステムからデータをインポートできます。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「LedgerLink」の章を参照してください。

Statutory Consolidation Engine

Statutory Consolidation Engine (SCE) は、アプリケーションのデータ密度が低く、次のいずれかの状態が存在する場合に、Hyperion Enterprise および Hyperion Enterprise の SQL バージョンと連動して連結の性能と機能を向上させるアドオン製品です。

- 勘定科目表のサイズが、会社間詳細の多用により増大している。

- 会社間トランザクションについて暫定的なルールを定義する必要がある。
- 項目と連結のリザーブを計算して、連結処理の詳細な監査証跡を作成するために、複雑な連結ロジックを定義する必要がある。

Statutory Consolidation Engine について詳しくは、『Hyperion Enterprise Statutory Consolidation Engine ユーザガイド』を参照してください。

2

Hyperion Enterpriseデスク トップ

この章の内容

デスクトップの概要	17
モジュール	19
デスクトップの機能	20
デスクトップのカスタマイズ	24
アプリケーションの参照のみモード	30

デスクトップの概要

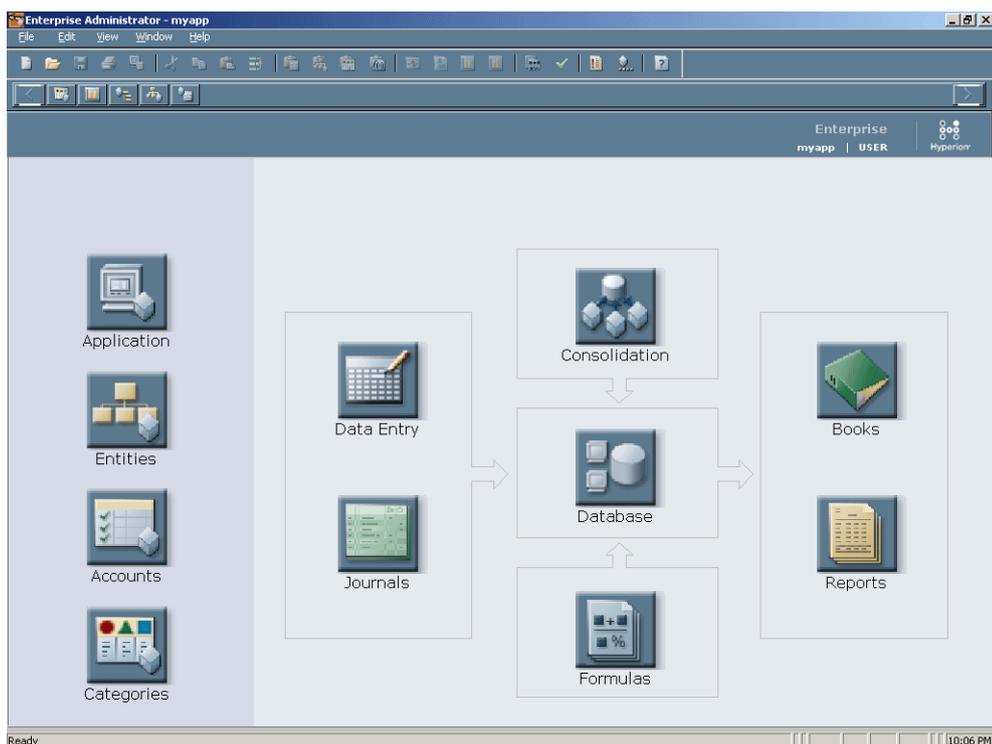
Hyperion Enterprise デスクトップは、[Hyperion Enterprise ログオン] ダイアログボックスにユーザ名とパスワードを入力した後に表示されます。デスクトップには、システム内のモジュールを表すアイコンが含まれています。アイコンが表すモジュールにアクセスするには、アイコンをクリックします。

デスクトップは常に表示されたままになります。別のウィンドウがアクティブになると、デスクトップのタイトルバーとツールバーがアクティブウィンドウの上に表示されます。デスクトップのコントロールメニュー、データの視点バーおよびツールバーは、どのウィンドウがアクティブになっていても使用できます。すべてのモジュールウィンドウを閉じると、デスクトップに戻ります。システムモジュールについて詳しくは、[19 ページの「モジュール」](#)を参照してください。

デスクトップアイコンについて詳しくは、[40 ページの「\[ファイル\] メニューの \[デスクトップ\]」](#)を参照してください。

 [3](#) に、デフォルトのデスクトップを示します。

図 3 Hyperion Enterprise デスクトップ



デスクトップの機能は次のとおりです。

- タイトルバー：システムおよびアプリケーションを識別します。モジュール内では、タイトルバーはアクティブなウィンドウを識別します。
- メニューバー：各種のタスクを実行するために選択可能なメニューの名前を示します。メニューはシステム全体を通じて共通ですが、オプションは選択しているモジュールによって異なります。詳しくは、19 ページの「モジュール」を参照してください。
- ツールバー：マウスをクリックするだけで、Hyperion Enterprise で使用される数多くのメニューコマンドにアクセスできます。詳しくは、20 ページの「ツールバー」を参照してください。
- データの視点バー：現在のデータ種別、レポート期間、組織、エンティティ、勘定科目およびデータ入力表を示します。データの視点バーを使用して、現在のデータの期間単位、単位またはデータ表示形式を変更したり、親または連結の詳細を表示する（アプリケーションの作成時にこれらのオプションを選択した場合）こともできます。データの視点バーは、1 か所に固定することも、浮動させることもできます。データの視点バーについて詳しくは、25 ページの「データの視点バーのカスタマイズ」を参照してください。
- マストヘッド：組織のロゴ、製品名、アプリケーション名およびユーザ名を示します。
- アイコン：システムモジュールを表します。アイコンが表すモジュールにアクセスするには、アイコンをクリックします。アイコンがグレーの場合は選択できません。詳しくは、19 ページの「モジュール」を参照してください。
- ステータスバー：例えば編集が可能であるかなどの、現在のウィンドウに関する情報を示します。詳しくは、22 ページの「ステータスバー」を参照してください。

モジュール

Hyperion Enterprise のすべてのモジュールは、デスクトップからアクセスできます。デスクトップでは、モジュールはアイコンで表されています。これらのモジュールにアクセスして各種のタスクを実行します。表 1 では、Hyperion Enterprise のモジュールと、各モジュールで実行できるタスクについて説明しています。

表 1 Hyperion Enterprise モジュール

モジュール	タスク
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none">● アプリケーションの定義● コードの定義● セキュリティの定義● バックアップアプリケーションの定義
エンティティ	<ul style="list-style-type: none">● 組織の定義● 下位構造の定義● 通貨の定義● エンティティ変換表の定義● エンティティ一覧の定義
データ種別	<ul style="list-style-type: none">● データ種別の定義● 期別替グループの設定
勘定科目	<ul style="list-style-type: none">● 勘定科目表の定義● サブ勘定科目表の定義● 勘定科目変換表の定義● 勘定科目一覧の定義● 会社間照合の設定
データ入力表	<ul style="list-style-type: none">● データ入力表の定義● データ入力表のデータの入力と編集● 計算式の実行
仕訳帳	<ul style="list-style-type: none">● 仕訳帳の入力● 仕訳帳の編集● 仕訳帳の転記と取り消し● 仕訳帳レポートの作成
レポート	<ul style="list-style-type: none">● レポートの作成● レポートスクリプトの定義● レポートスクリプトの編集● レポートのインポート● レポートのコンパイル● レポートの管理
パッケージ	<ul style="list-style-type: none">● パッケージの作成● パッケージスクリプトの定義● パッケージスクリプトの編集● パッケージのコンパイル

モジュール	タスク
連結	<ul style="list-style-type: none"> ● 連結の実行 ● 会社間照合レポートの作成と印刷
データベース	<ul style="list-style-type: none"> ● データベースの定義 ● データの読み込み ● データの抽出 ● 読み込み書式と抽出書式の定義 ● データの保護と解除 ● 計算式の実行 ● データ種別間のデータのコピー
計算式	<ul style="list-style-type: none"> ● ロジックの定義 ● ロジックの編集 ● ロジックのコンパイル ● カスタム関数の定義 ● 更新ルールの定義

デスクトップの機能

デスクトップには、Hyperion Enterprise アプリケーションの操作に使用できる次の機能が含まれています。

- データの視点バー
- ツールバー
- ステータスバー
- エラーログ

デスクトップのカスタマイズ方法については、[24 ページの「デスクトップのカスタマイズ」](#)を参照してください。

データの視点バー

現在のデータ種別、レポート期間、組織、エンティティ、勘定科目およびデータ入力表を示します。データの視点バーを使用して、現在のデータの期間単位、単位またはデータ表示形式を変更したり、親または連結の詳細を表示する（アプリケーションの作成時にこれらのオプションを選択した場合）こともできます。データの視点バーは、1 か所に固定することも、浮動させることもできます。データの視点バーについて詳しくは、[25 ページの「データの視点バーのカスタマイズ」](#)を参照してください。

ツールバー

ツールバーでは、マウスをクリックするだけで、Hyperion Enterprise で使用される数多くのメニューコマンドにアクセスできます。ツールバーはデータの視点バーのすぐ上に配置され、すべてのウィンドウに表示されます。すべてのウィンドウ

ですべてのメニューコマンドが使用できるとは限りません。現在のウィンドウで使用できないメニューコマンドは選択できないようになっています。

特定のツールバーアイコンに対応しているメニューオプションの機能がわからない場合は、マウスのポインタをアイコンの上に配置すると、ツールバーアイコンの説明が表示されます。

ウィンドウの作業領域を広くするには、ツールバーを非表示にします。詳しくは、[23 ページの「デスクトップ要素の表示／非表示」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise で使用可能なツールバーのアイコンは次のとおりです。

-  [新規作成] アイコンは、現在のウィンドウに要素を作成します。例えば、[サブ勘定科目表] ウィンドウでこのアイコンを選択し、サブ勘定科目表を作成できます。このアイコンは、[ファイル] メニューの [新規作成] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [開く] アイコンは、現在のウィンドウに要素を表示します。例えば、[サブ勘定科目表] ウィンドウでこのアイコンを選択し、別のサブ勘定科目表を開くことができます。このアイコンは、[ファイル] メニューの [開く] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [保存] アイコンは、現在のウィンドウのデータを保存します。このアイコンは、[ファイル] メニューの [保存] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [印刷] アイコンは、[印刷] ダイアログボックスを開きます。このアイコンは、[ファイル] メニューの [印刷] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [印刷プレビュー] アイコンは、現在のデータを印刷した場合に、それがどのように表示されるかを示します。このアイコンは、[ファイル] メニューの [印刷プレビュー] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [切り取り] アイコンは、選択されたデータを削除して、クリップボードに保存します。このアイコンは、[編集] メニューの [切り取り] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [コピー] アイコンは、選択されたデータをコピーして、クリップボードに保存します。このアイコンは、[編集] メニューの [コピー] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [貼り付け] アイコンは、クリップボードの内容をカーソルの位置に挿入します。データが選択されている場合は、そのデータが置換されます。このアイコンは、[編集] メニューの [貼り付け] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [行の挿入] アイコンは、現在のウィンドウまたは表に行を挿入します。このアイコンは、[編集] メニューの [行の挿入] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [勘定科目の貼り付け／サブ勘定科目の貼り付け] アイコンはコンテキストに応じたアイコンで、[勘定科目の貼り付け] または [サブ勘定科目の貼り付け] ダイアログボックスを開きます。これらのダイアログボックスでは、カーソルの位置に挿入する勘定科目またはサブ勘定科目を選択できます。このアイコンは、[編集] メニューの [勘定科目の貼り付け] または [編集] メニューの [サブ勘定科目の貼り付け] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [エンティティの貼り付け] アイコンは、[エンティティの貼り付け] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、カーソルの位置に挿入するエンティティを選択できます。このアイコンは、[編集] メニューの [エンティティの貼り付け] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [データ種別の貼り付け] アイコンは、[データ種別の貼り付け] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、カーソルの位置に挿入するデータ種別を選択できます。このアイコンは、[編集] メニューの [データ種別の貼り付け] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [関数の貼り付け] アイコンは、[関数の貼り付け] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、カーソルの位置に挿入する関数を選択できます。このアイコンは、[編集] メニューの [関数の貼り付け] コマンドと同じ機能を持っています。

-  [期間単位] アイコンは、[データの視点] ダイアログボックスの [データ] タブを開きます。このタブでは、現在のウィンドウに対して別の期間単位を選択できます。
-  [単位] アイコンは、[データの視点] ダイアログボックスの [データ] タブを開きます。このタブでは、現在のウィンドウに対して別の単位を選択できます。
-  [期別表示] アイコンは、現在の表示を期別に切り替えます。
-  [データ種別累計表示] アイコンは、現在の表示をデータ種別累計に切り替えます。
-  [計算式の実行] アイコンは、現在のウィンドウのデータに対する計算式を実行します。このアイコンは、[タスク] メニューの [計算式の実行] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [チェック] アイコンは、選択されたレポートまたはロジックをコンパイルします。このアイコンは、[タスク] メニューの [チェック] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [エラーログの表示] アイコンは、Hyperion Enterprise の使用中に発生したエラーを示します。このアイコンは、[表示] メニューの [エラーログ] コマンドと同じ機能を持っています。このアイコンは、すべてのウィンドウで使用できます。
-  [データの視点の編集] アイコンは、[データの視点] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、異なるデータ種別、期間、組織、エンティティ、勘定科目、期間単位、単位、データ表示形式、またはデータ入力表を選択できます。
-  [ヘルプ] アイコンは、[ヘルプ] ウィンドウを開きます。このウィンドウには、アクティブなウィンドウのヘルプトピックが表示されます。このアイコンをダブルクリックしてヘルプシステムの [検索] ダイアログボックスを表示することもできます。このアイコンは、すべてのウィンドウで使用できます。

アイコンは、次のいずれかの状態で表示されます。

- アクティブまたは通常 - この状態のアイコンは選択が可能です。
- 無効 - この状態のアイコンは選択できません。
- 選択または切り替え済み - この状態のアイコンは選択済みで、アクティブになっています。
- 切り替え - マウスポインタをこの状態のアイコンに移動すると、アイコンが浮き出ます。

ステータスバー

ステータスバーは、ウィンドウによって異なるシステムに関する情報を示します。すべてのウィンドウでステータスメッセージが表示されます。このメッセージには、情報を変更できるかどうかを示されます。

現在のウィンドウの情報が保護されている場合は、「保護済み」が表示され、データを変更できないことが示されます。このアイコンは、現在のウィンドウに対して情報を変更できるセキュリティ権限が付与されているものの、その表がアプリケーション内の別の場所で使用されていることを示します。従って、情報は表示できますが、変更はできません。

例えば、Eastern Sales エンティティの Actual データ種別のデータを変更するとします。別のユーザが Eastern Sales エンティティの Actual データ種別を編集している場合は、そのユーザが変更を完了するまでデータを変更できません。

セキュリティ権限によって、現在のデータの表示が許可されていても、変更は許可されていない場合には、「読込」が表示されます。このアイコンは、複数のモジュールが開いている場合に表示されることがあります。編集権限が必要であるのにこの権限が付与されていない場合は、システム管理者に連絡してください。

デスクトップ要素の表示／非表示

ツールバーやデータの視点バーを非表示にして、ウィンドウの作業領域を広くすることができます。Hyperion Enterprise の終了時にこれらのツールのいずれかが非表示になっていると、次回、Hyperion Enterprise にアクセスしたときに非表示のままになります。

- ▶ デスクトップの要素を表示または非表示にするには、次のいずれかを実行します。
 - ツールバーの表示／非表示を切り替えるには、[表示] メニューから [ツールバー] を選択します。
 - マストヘッドの表示／非表示を切り替えるには、[表示] メニューから [マストヘッド] を選択します。
 - データの視点バーの表示／非表示を切り替えるには、[表示] メニューから [データの視点バー] を選択し、[データの視点バー] チェックボックスをオンまたはオフにします。

エラーログの表示

[エラーログの表示] ダイアログボックスを開くと、Hyperion Enterprise の使用中に発生したエラーまたはメッセージを表示できます。他のユーザが受信したメッセージは表示されません。Hyperion Enterprise を終了するたびに、エラーログを消去するか、現在のセッションのエラーログを以前のセッションのエラーログに追加するように、システムを設定できます。エラーログの設定変更の指定方法については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「アプリケーションの作成」の章を参照してください。印刷方法については、33 ページの「印刷オプションの設定」を参照してください。

- ▶ エラーログを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 任意のウィンドウで [表示] メニューから、[エラーログ] を選択して、[エラーログの表示] を表示します。

ヒント： エラーログツールバーアイコンを選択することもできます。

- 2 必要に応じて次の操作を行います。
 - ダイアログボックスでエラーを表示するには、テキストボックスをスクロールします。
 - エラーを印刷するか、ファイルに保存するには、[印刷] を選択します。
 - エラーを削除してエラーログを閉じるには、[ログをクリア] を選択します。
 - エラーメッセージをクリアせずにエラーログを閉じるには、[OK] をクリックします。

デスクトップのカスタマイズ

アプリケーションの構造は Hyperion Enterprise システム管理者が設定しますが、ユーザは次のオプションをカスタマイズして Hyperion Enterprise の外観を決定できます。

- 色および他の設定変更
- パスワード
- データの視点
- ツールバーとデータの視点バーの表示／非表示

設定変更は、HYPENT.INI ファイルに格納されます。

データの視点の選択

データの視点とは、アプリケーションの起動時に、Hyperion Enterprise がアクセスするデータを指定するために定義される要素の集まりです。例えば、世界連結アプリケーションの法人と呼ばれる組織を通常使用する場合、法人をそのアプリケーションの組織として選択します。別の組織を選択しない限り、法人は現在の組織のままになります。

データの視点 (POV) バーを使用すると、現在のデータ種別、レポート期間、組織、エンティティ、勘定科目、およびデータ入力表を選択できます。また、期間単位、単位、データ表示形式などの要素を表示することもできます。アプリケーションの作成時に、親または連結の詳細のオプションを選択した場合は、これらを表示することができます。

親または連結の詳細を設定することもできます。「期間ごとの組織」アプリケーション用のこれらのコンポーネントを POV バーに表示するには、[データの視点] ダイアログボックスで [親エンティティ] と [連結の詳細] ボタンをクリックします。

データ入力、パッケージ、レポート、またはデータベースのモジュールにアクセスするには、データの視点で [組織] と [エンティティ] を選択する必要があります。仕訳帳モジュールにアクセスするには、データの視点で [組織] と [データ種別] を選択する必要があります。連結モジュールにアクセスするには、データの視点で [データ種別] を選択する必要があります。組織がデータ種別や期間ごとに変化するエンティティモジュールでは、まず [データ種別] と [期間] を選択する必要があります。

選択したデータの視点は、HYPENT.INI ファイルに保存されます。例えば、データの視点バーを使って 1999 年 11 月を現在の期間として選択すると、データの視点バーを使って変更するまで、1999 年 11 月が使用されます。データの視点の設定は、勘定科目、データ種別、計算式のモジュール以外のすべてのウィンドウで変更できます。

- ▶ データの視点を選択するには、次の手順に従います。
 - 1 デスクトップまたはデータの視点を使用しているウィンドウで、[編集] メニューから [データの視点] を選択し、次の操作を実行します。
 - データ種別を選択するには、[データ種別] タブを選択し、データ種別の ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。

- 期間を選択するには、[期間] タブを選択し、期間の ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。
- 組織を選択するには、[組織] タブを選択し、組織の ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。
- エンティティを選択するには、[エンティティ] タブを選択し、エンティティの ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。
- 勘定科目を選択するには、[勘定科目] タブを選択し、勘定科目の ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。

注： データの視点に対して選択する勘定科目は、レポート内で現在の勘定科目として使用されます。レポートで@ACC 関数を使用すると、この勘定科目のデータが常に使用されます。レポート内の現在の勘定科目について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。

- データ入力モジュールを開いたときに表示されるデータ入力表を選択するには、[データ入力表] タブを選択し、データ入力表の ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。
 - 親を選択するには、[親] タブを選択し、親の ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択します。
 - [連結の詳細] タブを選択し、表示する連結の詳細を選択します。
- 2 単位、期間単位またはデータ表示形式を変更するには、[データベース] ウィンドウか [データ入力] ウィンドウで [編集] メニューの [データの視点] を選択し、[データ] タブを選択して単位、期間単位またはデータ表示形式を指定します。
 - 3 [OK] をクリックします。

データの視点バーのカスタマイズ

データの視点 (POV) バーを使用すると、現在のデータ種別、レポート期間、組織、エンティティ、勘定科目、およびデータ入力表を選択できます。データの視点バーは、Hyperion Enterprise のデスクトップまたは任意のモジュールでカスタマイズできます。データの視点バーをカスタマイズすると、期間単位、単位、データ表示形式などの他のデータの視点の要素を表示できるようになります。アプリケーションの作成時に、親または連結の詳細のオプションを選択した場合は、これらを表示することができます。データの視点バーを使って、以下の項目を任意に組み合わせて表示できます。

- データ種別
- 期間
- 組織
- エンティティ
- 勘定科目
- データ入力表
- 期間単位
- 単位

- データ表示形式
- 親
- 連結詳細

マウスポインタをデータの視点バーボタンの上に配置すると、そのボタンの説明を表示できます。図 4 に、データの視点バーのサンプルを示します。

図 4 データの視点バー



データの視点バーボタンを選択すると、選択した項目のリストが [データの視点] ダイアログボックスに表示されます。例えば、エンティティボタンを選択すると、エンティティのリストが表示されます。

ヒント： データの視点バーを浮動パレットにするには、バーのグレーの領域を選択して移動先にドラッグします。データの視点バーを画面上部に固定するには、データの視点のタイトルバーを画面上部にドラッグします。

データの視点バーを非表示にして、ウィンドウの作業領域を広くすることができます。データの視点バーを非表示にした場合は、図 5 に示すデータの視点ツールバーアイコンを使用してデータの視点バーにアクセスできます。

図 5 データの視点ツールバーアイコン



データの視点バーを非表示にする方法については、23 ページの「デスクトップ要素の表示／非表示」を参照してください。

- ▶ データの視点バーをカスタマイズするには、次の手順に従います。
 - 1 [表示] メニューから [データの視点バー] を選択します。
 - 2 [データの視点] ダイアログボックスで、データの視点バーに表示するボタンを選択し、[OK] を選択します。

データへのアクセス

Hyperion Enterprise のデータにアクセスするには、エンティティ、データ種別、期間および勘定科目を選択します。データにアクセスすると、そのデータの表示、編集、抽出またはレポートの作成ができるようになります。レポートについては、『Hyperion Reporting ユーザガイド』を参照してください。

図 6 は、エンティティ、データ種別、期間および勘定科目がどのようにレポートに組み込まれるかを示しています。

図 6 データのアクセス

REPORT 1 JANUARY SALE FOR HQ			REPORT 2 PLANT 3 INCOME STATEMENT	
	ACTUAL	BUDGET	ACTUAL DATA	JAN
SALES - P1	250	180	NET SALES	110
SALES - P2	325	300	COST OF GOODS	40
SALES - P3	110	145	TAXES	15
TOTAL SALES	685	625	NET EARNINGS	55

上の図で、Report 1 は、HQ エンティティの 1 月の Actual および Budget の Sales 勘定科目データを含んでいます。Report 2 は、Plant 3 エンティティの Actual データを使用して損益計算書を生成する方法を示しています。

データを編集するには、データ入力表、仕訳帳エントリまたはデータ読み込みファイルを使用できます。データはデータ入力表とデータベースで表示できます。データを ASCII ファイルに抽出して別のアプリケーションで使用することもできます。

データ入力表またはデータベースでデータの表示または編集を行うときは、異なるエンティティ、データ種別またはこれら両方を選択して、異なるデータを操作できます。例えば、Schedule 1 を使用して Plant 3 エンティティの Actual データ種別のデータを表示しており、次に Plant 1 エンティティの Actual データを表示します。この場合は、Plant 1 エンティティを選択しますが、Actual データ種別を再び選択する必要はありません。これは既に現在のデータ種別になっているためです。

FDM データのドリルバック

FDM では、Web ベースで示されるワークフローユーザーインターフェイスを使用して、標準化された財務データ管理プロセスを開発できます。これにより、組織全体におけるデータの収集、マッピング、確認、および移動に伴うデータの整合性のリスクを回避できます。

また、ユーザは、POV 情報や読み込みを実行したユーザ名など、データの読み込みに関するその他の情報も確認できます。

ユーザ設定変更の定義

設定変更を定義して、Hyperion Enterprise がワークステーション上でどのように実行されるかを設定します。例えば、[Enter] キーの動作や Hyperion Enterprise デスクトップの各領域の色の設定変更を指定できます。設定変更は、一度に 1 つのアプリケーションに対して指定したり、すべてのアプリケーションに対して指定できます。

Hyperion Enterprise アプリケーションの FDM データを区別するためにビジュアルキューを設定できます。必要に応じてこのオプションを有効または無効にします。このオプションは、Hyperion Enterprise デスクトップまたは Hyperion Enterprise

データベースモジュールから設定できます。但し、このオプションを Hyperion Enterprise Web から管理することはできません。

注： すべてのアプリケーションに対して選択した設定は、個別のアプリケーションに対して選択したオプションによって上書きされます。

- ▶ ユーザ設定変更を定義するには、次の手順に従います。
- 1 デスクトップで、[ファイル] メニューの [設定変更] から [ユーザー] を選択します。
 - 2 [アプリケーション] ドロップダウンリストで、次のオプションの1つを選択します。
 - 1つのアプリケーションに対して設定変更を指定するには、アプリケーションの ID を選択します。
 - すべてのアプリケーションに対して設定変更を一度に指定するには、[すべて] を選択します。
 - 3 [Enter] キーの動作に関する設定変更を指定するには、ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - 次の行に移動 - カーソルを次の行に移動します。
 - 次の列に移動 - カーソルを次の列に移動します。
 - セルに残る - カーソルを現在のセルに残します。
 - 4 Hyperion Enterprise の終了時に変更が保存されるように指定するには、[選択ボックスに変更を保存し終了] を選択します。
 - 5 Hyperion Enterprise Reporting で [Excel ワークシート] オプションを使ってワークシートを作成した後、Microsoft Excel を自動的に起動してワークシートを読み込む場合には、[Excel ワークシートオプションの選択後に Excel を実行] オプションを選択します。
 - 6 Hyperion Retrieve からデータを取り込むときの設定変更を指定するには、次のチェックボックスをオンまたはオフにします。
 - エラーをゼロで表示 - このオプションを選択し、Hyperion Retrieve にエラーの値をゼロ (0) として表示します。
 - 単位 HPVAL - このオプションを選択し、システムが Hyperion Retrieve の HPVAL 関数を使用して取り出す値の単位を変更します。
 - データなしをゼロで表示 - このオプションを選択し、データのない値を Hyperion Retrieve にゼロ (0) として表示します。
 - 7 パスワードの同期を有効にするには、[全アプリケーションのパスワードを同期する] を選択します。
 - 8 現在のユーザの全アプリケーションのサーバタスクステータスを上書きするには、次のいずれかのオプションを選択します。
 - アプリケーションデフォルトの使用 - サーバベースの連結に対し、アプリケーションに選択されているタスクステータスオプションを使用します。
 - タスクステータスの表示 - サーバベースの連結に対し、[サーバータスクステータス] ダイアログボックスを表示します。

- **タスクステータスの非表示** - サーバベースの連結に対し、[サーバータスクステータス] ダイアログボックスを表示しません。
- 9 システムの色を設定するには、[色の変更] をクリックします。詳しくは、[29 ページの「システム色の設定」](#)を参照してください。
 - 10 必要に応じて、「**ビジュアルキューを使用可能にする**」を選択するか、オフにします。
 - 11 [OK] をクリックします。

アプリケーション設定変更の定義

Hyperion Enterprise アプリケーションのアプリケーション設定変更を定義できます。例えば、ユーザパスやデフォルトのセキュリティクラスを指定できます。

- ▶ アプリケーション設定変更を定義するには、次の手順に従います。
- 1 デスクトップで、[ファイル] メニューの [設定変更] から [アプリケーション] を選択します。
 - 2 必要に応じて次の操作を行います。
 - エラーログを保存するディレクトリを変更するには、新しいユーザパスを指定します。
 - デフォルトのセキュリティクラスを変更するには、ドロップダウンリストからセキュリティクラスを選択します。
 - 3 変更を保存するには、[OK] をクリックします。

ヒント： このダイアログボックスでパスワードを変更することもできます。詳しくは、[30 ページの「パスワードの変更」](#)を参照してください。

システム色の設定

Hyperion Enterprise デスクトップの各領域に対して色を設定できます。例えば、親のデータと算出データの色を指定すれば、入力を受け入れないセルを識別できます。

デスクトップの枠線、ダイアログボックスの背景、テキストの色など、Hyperion Enterprise ウィンドウ内の各領域の色を選択することもできます。

- ▶ システムの色を設定するには、次の手順に従います。
- 1 デスクトップで、[ファイル] メニューの [設定変更] から [ユーザー] を選択します。
 - 2 [アプリケーション] ドロップダウンリストで、次のいずれかを選択します。
 - 1つのアプリケーションの色の設定変更を指定するには、アプリケーションのIDを選択します。
 - すべてのアプリケーションの色の設定変更を一度に指定するには、[すべて]を選択します。

- 3 [色の変更] を選択します。
- 4 [色の定義] ドロップダウンリストで、色を変更するデスクトップ領域を選択します。
- 5 次のいずれかの操作を行います。
 - 基本色を選択するには、[基本色] パレットから色を選択します。
 - カスタム色を選択するには、定義する一般色を調合パレットで選択し、シェーディングバーで明暗を変更してから、[追加] を選択します。
- 6 変更を保存するには、[OK] をクリックします。

パスワードの変更

Hyperion Enterprise のアプリケーションを開くには、パスワードが必要です。セキュリティを確保するために、アプリケーションのパスワードはいつでも変更できます。パスワードでは大文字と小文字が区別されます。パスワードを大文字でシステムに入力した場合は、そのパスワードを使うときに、必ず大文字を使用してください。

注： パスワードを忘れてしまった場合は、Hyperion Enterprise のシステム管理者から新しいパスワードを割り当ててもらする必要があります。

- ▶ パスワードを変更するには、次の手順に従います。
- 1 デスクトップで、[ファイル] メニューから [パスワードの変更] を選択します。
 - 2 古いパスワードを [古いパスワード] テキストボックスに入力します。
 - 3 新しいパスワードを [新しいパスワード] テキストボックスに入力します。
 - 4 新しいパスワードを [パスワードの確認] テキストボックスに入力して確認します。
 - 5 次のいずれかの操作を行います。
 - 変更を保存するには、[OK] をクリックします。
 - 変更を保存しないで [パスワードの変更] ダイアログボックスを閉じるには、[キャンセル] を選択します。

アプリケーションの参照のみモード

Hyperion Enterprise には、Hyperion Enterprise アプリケーションを参照のみモードに設定するための管理者用ユーティリティが用意されています。これによって、多くのユーザはアプリケーションのデータを読み込み、そのデータをすばやく報告することができます。アプリケーションが参照のみモードの場合、データの読み込み、HPLNK の取り出しおよび管理はできません。

参照のみモードの Hyperion Enterprise アプリケーションを開くと、保護記号と「読込」という文字がデスクトップの右下に表示されます。アプリケーションが参照のみモードであることを示すメッセージや警告のダイアログボックスは表示されません。

アプリケーションで設定したセキュリティ権限は、参照のみモードでも適用されます。従って、特定のレポートやデータを通常時に表示できないユーザは、参照のみモードのアプリケーションの使用時もそれらを表示することはできません。

参照のみモードで新しいレポートを作成することはできませんが、既存のレポートは、ラベル名とレポートの説明を除いて表示および変更ができます。行と列の見出しを変更することはできますが、変更を保存することはできません。

注： 参照のみモードでレポートをプレビューする場合、フォントやフォントサイズなどのページ書式またはページ設定オプションの変更はできません。レポートには、アプリケーションが参照のみモードになる前に有効であった設定が使用されます。

この章の内容

印刷オプションの設定.....	33
Hyperion Enterpriseでのプレビュー.....	35
Hyperion Enterpriseでの印刷.....	35

印刷オプションの設定

Hyperion Enterprise内で印刷する場合は、次の印刷オプションを設定できます。

- デフォルトのページ書式
- デフォルトのページ設定
- デフォルトのラベル
- デフォルトのプリンタ

注： ページ書式、ページ設定、またはプリンタを変更すると、すべてのモジュールでの印刷に影響を与えます。

デフォルトのページ書式の変更

デフォルトのページ書式は、すべての出力のデフォルトのフォント、そのサイズ、スタイル、色を決定します。デフォルトのページ書式はいつでも変更できます。

デフォルトのページ書式を変更するときは、デフォルトのフォント、文字サイズ、スタイル、および色を、表2に示すそれぞれのページ書式領域で選択できます。

表2 ページ書式領域

書式領域	書式設定された項目
ラベル	[ラベル設定] ダイアログボックスで指定した日付、時刻、ページ番号、およびその他のテキスト
ヘッダー	ページの先頭に表示されるテキスト
列	列見出し
行	行見出し
データ	セルに表示されるデータ

書式領域	書式設定された項目
フッター	ページの末尾に表示されるテキスト

印刷出力に特定の書式指定が含まれている場合、デフォルトのページ書式は上書きされます。例えば、デフォルトのページ書式で列見出しに下線を付けるよう指定し、出力の [列] セクションでは指定しない場合、その印刷の見出しには下線は表示されません。

- ▶ デフォルトのページ書式を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 任意のウィンドウで、[ファイル] メニューから [ページ書式] を選択します。
 - 2 ページモデルから、書式設定するページセクションを選択します。
 - 3 選択したセクションのフォント、文字サイズ、スタイル、および色を選択します。
 - 4 [OK] をクリックします。

デフォルトのページ設定の変更

デフォルトのページ設定で印刷する文書の余白を指定します。デフォルトのページ設定は、いつでも変更できます。

- ▶ デフォルトのページ設定を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 ウィンドウで、[ファイル] メニューから [ページ設定] を選択します。
 - 2 [左]、[右]、[上]、[下] に余白設定をインチ単位で入力します。
 - 3 [OK] をクリックします。

デフォルトのラベル設定の変更

デフォルトのラベル設定で、時刻、日付、およびページ番号を各ページに印刷するかどうかを指定します。デフォルトのラベル設定は、いつでも変更できます。位置の設定を選択して要素の位置を指定します。例えば、ページ番号の設定を [下] と [中央] に指定すると、ページ番号が各ページの下中央に印刷されます。

注： 日付と時刻を同じ位置に表示するように選択すると、日付が先に表示されます。

- ▶ デフォルトのラベル設定を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 ウィンドウで、[ファイル] メニューから [ページ設定] を選択します。
 - 2 [ラベル] を選択します。
 - 3 日付、時刻、またはページ番号を印刷するかどうかを選択します。
 - [日付] または [時刻] を選択する場合は、その位置と書式を選択します。
 - [ページ番号] を選択する場合、出力の最初のページに割り当てる位置と番号を指定します。

- 4 [上/下部テキスト] の [上部] に、ヘッダーに表示するテキストを入力します。[上/下部テキスト] の [下部] に、フッターに表示するテキストを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

デフォルトのプリンタの変更

Hyperion Enterprise はデフォルトのプリンタに印刷します。一度に選択できるプリンタは1台だけです。複数のプリンタをインストールしている場合、いつでもデフォルトのプリンタを変更できます。

- ▶ デフォルトのプリンタを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 ウィンドウで、[ファイル] メニューから [プリンタの選択] を選択します。
 - 2 [プリンタの選択] リストから、デフォルトのプリンタとして使用するプリンタを選択し、[OK] をクリックします。

注： デフォルトのプリンタは HRPrinter です。HRPrinter は、デフォルトにより HER のインストール中にシステムにインストールされます。

Hyperion Enterprise でのプレビュー

現在の情報を印刷または保存する前に、プレビュー用のウィンドウに表示することができます。これにより、印刷の内容や書式を変更する必要があるかどうかを確認できます。但し、レポートをプレビューした後で、ファイルに出力することはできません。

- ▶ Hyperion Enterprise でプレビューするには、次の手順に従います。
 - 1 [デスクトップ] と [アプリケーション] ウィンドウ以外の任意のウィンドウで、[ファイル] メニューから [プレビュー] を選択します。
 - 2 ダイアログボックスが表示されたら、プレビューするオプションを選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。
 - 4 プレビューウィンドウのボタンを使用して、ウィンドウに情報を表示します。

ヒント： ツールバーから [プレビュー] アイコンを選択することもできます。

Hyperion Enterprise での印刷

現在のウィンドウのすべてまたは一部の情報を印刷したり、ファイルに保存することができます。例えば、[組織] ウィンドウで、現在の組織または組織の部門を表示することができます。

[ファイルへ出力] オプションを選択すると、Hyperion Enterprise は指定した情報の書式なし ASCII テキストファイルを作成します。作成されたファイルには、次の特性があります。

- 制御文字はありません。
- 列の折り返しはありません。
- 行の長さは 32,767 文字までです。
- レポートの行数はディスク容量によって制限されます。
- プログラムによる改ページおよびレポートでの用紙送りはありません。

注： レポートをファイルに出力する場合、レポートのページ数に関係なく、システムはレポートを 1 ページとして読み込みます。そのため、ファイルを別の外部システムに抽出できます。

書式設定された ASCII テキストファイルを作成するには、Windows の標準方法を使ってファイルに出力します。

注： ファイルへ出力するには、汎用プリンタドライバを選択する必要があります。汎用プリンタドライバが使用できない場合、Windows の [コントロールパネル] を使ってドライバを追加できます。

プリンタの選択または設定方法について詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。書式設定された ASCII ファイルへの出力方法について詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。出力のプレビューについて詳しくは、[35 ページの「Hyperion Enterprise でのプレビュー」](#)を参照してください。

▶ Hyperion Enterprise で印刷するには、次の手順に従います。

- 1 [デスクトップ] ウィンドウと [アプリケーション] ウィンドウ以外のウィンドウで、[ファイル] メニューから [印刷] を選択します。
- 2 印刷するオプションを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 出力をファイルに保存するには、[ファイルへの出力] を選択し、[ファイル名] にファイル名を入力します。
- 5 部数、印刷品質、および印刷するページを選択し、[OK] をクリックします。

ヒント： 情報をウィンドウに表示するには、情報をプレビューして [プレビュー] ウィンドウから [印刷] を選択することもできます。

4

Hyperion Enterpriseの使用

この章の内容

Hyperion Enterprise の起動.....	37
Hyperion Enterprise の終了.....	38
システムメニュー.....	38
アプリケーション要素.....	43
アプリケーションへのアクセス.....	45
アプリケーション要素の変更.....	47
表の操作.....	49

Hyperion Enterprise の起動

Hyperion Enterprise は、[スタート] メニューから起動できます。Hyperion Enterprise を起動する前に、Windows 環境について基本的に理解しておく必要があります。

DOS プロンプトから Hyperion Enterprise を起動するには、Hyperion Enterprise のプログラムディレクトリを PATH ステートメントに含める必要があります。使用するアプリケーションが HYPENT.INI ファイルでデフォルトのアプリケーションとして設定されている場合は、DOS の起動コマンド行でアプリケーション名を省略することができます。

Microsoft Windows の使用方法について詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。PATH ステートメントについては、MS-DOS のユーザガイドとリファレンスを参照してください。

▶ Hyperion Enterprise を起動するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[Hyperion Enterprise] の順に選択します。
- Windows がインストールされているディレクトリ内のコマンドプロンプトで、「win hypent<アプリケーション>」と入力します。<アプリケーション>の部分には、起動するアプリケーションの ID が入ります。

ヒント： デフォルト以外のアプリケーションを起動する場合は、コマンド行でアプリケーション ID のみを指定する必要があります。

- [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。コマンド行で「win hypent<アプリケーション>」と入力し、[Enter] キーを押します。<アプリケーション>の部分には、起動するアプリケーションの ID が入ります。
- 2 ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

ヒント： ユーザパスワードでは、大文字と小文字が区別されます。Hyperion Enterprise のパスワードは、いつでも変更できます。詳しくは、[30 ページの「パスワードの変更」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise の終了

Hyperion Enterprise は、任意のウィンドウから、いつでも終了できます。変更を保存せずに終了しようとする、保存を確認するメッセージが表示されます。システムの終了後、Windows の画面が再び表示され、他のソフトウェアアプリケーションを選択できます。

- ▶ Hyperion Enterprise を終了するには、次の手順に従います。
- 1 任意のウィンドウで [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
 - 2 [OK] をクリックします。

ヒント： [デスクトップ] ウィンドウの [コントロール] メニューから [閉じる] を選択し、システムを終了することもできます。

システムメニュー

タスクの実行にあたっては、マウスまたはキーボードを使用してメニューオプションを選択する必要があることが多々あります。システムメニューは次のとおりです。

- [コントロール]
- [ファイル]
- [ファイル] メニューの [デスクトップ]
- [編集]
- [表示]
- [ナビゲート]
- [タスク]
- [ウィンドウ]
- [ヘルプ]

[コントロール] メニュー

[コントロール] メニューは、Windows 対応製品の標準機能の 1 つで、ウィンドウの左上隅にある [コントロール] ボタンをクリックすると表示されます。このメニューには、ウィンドウを操作するためのメニューコマンドが含まれています。[コントロール] メニューのコマンドについて詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

このメニューは、[デスクトップ] ウィンドウを含むすべてのウィンドウから使用できます。[Switch To (切り替え)] コマンドは、[デスクトップ] ウィンドウの [コントロール] メニューにしか表示されません。[次へ] コマンドは、[デスクトップ] ウィンドウの [コントロール] メニューには表示されません。

[ファイル] メニュー

[ファイル] メニューのコマンドを使用すると、アプリケーション要素を管理および印刷したり、アクティブなウィンドウまたは Hyperion Enterprise セッションを閉じたり、Hyperion Enterprise モジュールにアクセスしたり、デフォルト設定を変更したりできます。

[ファイル] メニューのコマンドは、現在どのモジュールを表示しているかによって異なります。表 3 に、[ファイル] メニューのコマンドを示します。詳しくは、54 ページの「表内のアプリケーション要素の変更」を参照してください。

表 3 [ファイル] メニューのコマンド

コマンド	用途
新規<要素>	新規組織などのアプリケーション要素を作成します。
<要素>を開く	アプリケーション要素を開きます。
閉じる	現在のウィンドウを閉じます。
保存	現在のウィンドウの情報を保存します。
<要素>のコピー	アプリケーション要素の複製を作成します。
<要素>の属性	アプリケーション要素の作成に使用する ID、説明、セキュリティクラスなどの属性を表示または編集します。
<要素>の削除	アプリケーションから要素を削除します。
印刷	現在のウィンドウの情報を印刷します。
プレビュー	現在のウィンドウの情報またはレポートを [プレビュー] ウィンドウに表示します。
ページ書式	印刷前にページ書式を設定します。
ページ設定	印刷前にページ余白を設定します。
プリンタの選択	プリンタを選択します。
デスクトップ	[デスクトップ] メニューを表示します。
設定変更	1 つ以上のアプリケーションの設定を表示または変更します。

コマンド	用途
終了	Hyperion Enterprise セッションを終了します。

[デスクトップ] メニューについて詳しくは、40 ページの「[ファイル] メニューの [デスクトップ]」を参照してください。ユーザ設定変更について詳しくは、27 ページの「ユーザ設定変更の定義」を参照してください。

[ファイル] メニューの [デスクトップ]

Hyperion Enterprise モジュールを開くには、[ファイル] メニューの [デスクトップ] のコマンドを使用します。モジュールは一度に複数開くことができます。例えば、[レポート] ウィンドウで作業している場合は、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [エンティティ] コマンドを選択すると、組織表を表示できます。

[ファイル] メニューの [デスクトップ] を使用すると、現在使用しているウィンドウの別のインスタンスを開くこともできます。例えば、データ入力表にデータを入力している場合は、[データ入力表] コマンドを選択すると、別のデータ入力表を同時に開くことができます。一度に複数開くことができるのは、[連結]、[データベース]、[データ入力表]、[計算式]、[レポート] および [パッケージ] の各ウィンドウです。

注： 一部のメニューコマンドは、セキュリティ上の目的のため、または現在のモジュールが他のモジュールへのアクセスを禁止しているために無効になっている場合があります。

[パッケージ]、[連結] または [レポート] モジュールを使用している場合は、他のどのモジュールにもアクセスできます。[データベース] モジュールを使用している場合は、[計算式] 以外のすべてのモジュールにアクセスできます。[仕訳帳] モジュールを使用している場合は、[仕訳帳] 以外のすべてのモジュールにアクセスできます。

現在のモジュールに対して「表示」アクセス権しか持っていない場合は、他のどのモジュールにもアクセスできません。表 4 は、現在のモジュールに対して「修正」アクセス権を持っている場合にアクセスできるモジュールを示したものです。

表 4 「修正」アクセス権を持っている場合のモジュールへのアクセス

作業中のモジュール	アクセス可能なモジュール
勘定科目	計算式およびエンティティ
アプリケーション	作業中のモジュールのみ
データ種別	勘定科目
エンティティ	作業中のモジュールのみ
計算式	作業中のモジュールのみ
データ入力表	計算式

詳しくは、20 ページの「デスクトップの機能」を参照してください。

[編集] メニュー

[編集] メニューのコマンドを使用すると、アクティブなウィンドウの情報を操作したり、ウィンドウをスクロールせずに情報をすばやく検索したり、データの視点を変更したりできます。使用可能なコマンドは、現在どのモジュールを表示しているかによって異なります。表 5 に、一般的に使用される [編集] メニューのコマンドについて説明します。

表 5 [編集] メニューのコマンド

コマンド	用途
切り取り	選択されたブロックを切り取って、Windows のクリップボードに保存します。
コピー	選択されたブロックをコピーして、Windows のクリップボードに保存します。
貼り付け	Windows のクリップボードの内容を選択した位置に貼り付けます。
<要素>の貼り付け	コンテキストに応じたダイアログボックスを開いて、現在ハイライトされている領域に有効な情報を貼り付けられるようにします。
行の挿入	表に行を挿入します。
行の削除	行を Windows のクリップボードにコピーせずに表から削除します。
除去	ハイライトしたデータを Windows のクリップボードにコピーせずにクリアします。
<要素>の検索	表をスクロールせずに表のアプリケーション要素にアクセスします。
データの視点	データにアクセスするために使用するアプリケーション要素を選択します。

注： [編集] メニューを使用すると、[データ入力表] ウィンドウで欠落しているデータをゼロに変換することができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「データ入力表へのデータの入力」の章を参照してください。

[表示] メニュー

[表示] メニューのコマンドを使用すると、ツールバーまたはデータの視点バーの表示と非表示を切り替えたり、エラーを表示したりできます。表 6 に [表示] メニューのコマンドについて説明します。

表 6 [表示] メニューのコマンド

コマンド	用途
ツールバー	ツールバーの表示と非表示を切り替えます。詳しくは、20 ページの「ツールバー」を参照してください。

コマンド	用途
データの視点バー	データの視点バーの表示と非表示を切り替えます。詳しくは、 25 ページの「データの視点バーのカスタマイズ」 を参照してください。
エラーログ	Hyperion Enterprise の使用中に発生したエラーを表示します。詳しくは、 23 ページの「エラーログの表示」 を参照してください。

ツールバーまたはデータの視点バーの表示と非表示を切り替える方法について詳しくは、[23 ページの「デスクトップ要素の表示／非表示」](#)を参照してください。

[ナビゲート] メニュー

[ナビゲート] メニューのコマンドを使用すると、同じモジュール内の別のウィンドウにアクセスできます。例えば、[ナビゲート] メニューの [勘定科目一覧] コマンドを使用すると、[勘定科目] モジュールから [勘定科目一覧] ウィンドウを開くことができます。[ナビゲート] メニューは、複数のウィンドウで構成されるモジュールにしか表示されません。[表 7](#) は、[ナビゲート] メニューのコマンドを使用してアクセスできるウィンドウを示したものです。

表 7 [ナビゲート] メニューのコマンド

モジュール	[ナビゲート] メニューからアクセスできるウィンドウ
勘定科目	[勘定科目表]、[サブ勘定科目表]、[勘定科目変換表]、[会社間照合] および [勘定科目一覧]
アプリケーション	[アプリケーション]、[セキュリティの設定]、[セキュリティアクセス] および [コード]
パッケージ	[パッケージ] および [パッケージスクリプトエディタ]
データ種別	[データ種別] および [期別替]
エンティティ	[組織]、[下位構造]、[エンティティ変換表]、[通貨] および [エンティティ一覧]
計算式	[ロジック]、[カスタム関数]、[更新ルール] および [計算式スクリプトエディタ]
レポート	[レポート] および [レポートスクリプトエディタ]

注： [ナビゲート] メニューのコマンドを選択すると、アクティブなウィンドウの内容が選択したウィンドウの情報で置換されます。新しいウィンドウで情報を表示するには、[ファイル] メニューの [デスクトップ] のコマンドを使用します。詳しくは、[39 ページの「\[ファイル\] メニュー」](#)を参照してください。

[タスク] メニュー

[タスク] メニューのコマンドを使用すると、アクティブなウィンドウに固有のタスクを実行できます。例えば、[ロジック] ウィンドウの [タスク] メニューからは、選択したモデルの構文をチェックするための [現在のロジックのチェック]

コマンドを使用できます。[タスク] メニューは、アクティブなウィンドウに固有のタスクがある場合にしか表示されません。

[ウィンドウ] メニュー

[ウィンドウ] メニューには、Windows の標準のメニュー コマンドが含まれています。[ウィンドウ] メニューのコマンドについては、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューのコマンドを使用すると、コンテキストに応じたヘルプ、オンラインヘルプ、情報マップへのリンク、テクニカルサポート、開発者用ネットワークまたはオラクル社の Web サイトにアクセスしたり、Hyperion Enterprise のバージョンや著作権に関する情報を取得したりできます。[ヘルプ] メニューのコマンドは、どのモジュールでも同じです。[ヘルプ] メニューのコマンドについては、表 8 を参照してください。

表 8 [ヘルプ] メニューのコマンド

オプション	説明
このトピックのヘルプ	Web ページのコンテキストに応じたヘルプを起動します。 注： Windows の 32 ビットアプリケーションでは、すべてのウィンドウとダイアログボックスに [ヘルプ] ボタンがある場合、このオプションは表示されないことがあります。
情報マップ	次の情報を提供する Hyperion Enterprise 情報マップを起動します。 <ul style="list-style-type: none">● PDF および HTML 形式のオンラインヘルプ● オラクル社の Performance Management ソフトウェアアプリケーションまたはモデルを使いこなすための関連リソースへのリンク

アプリケーション要素

Hyperion Enterprise では、データの保存およびアクセスのために次の 4 つのアプリケーション要素が使用されます。

- エンティティ - 組織内のレポート単位
- データ種別 - 「実績」や「予測」などのデータカテゴリ
- 期間 - 四半期、月、日など、データ種別内の時間セグメント
- 勘定科目 - エンティティ、データ種別および期間の財務データに関する計算書

図 7 は、データベース内のアプリケーション要素を示したものです。

図7 アプリケーション要素

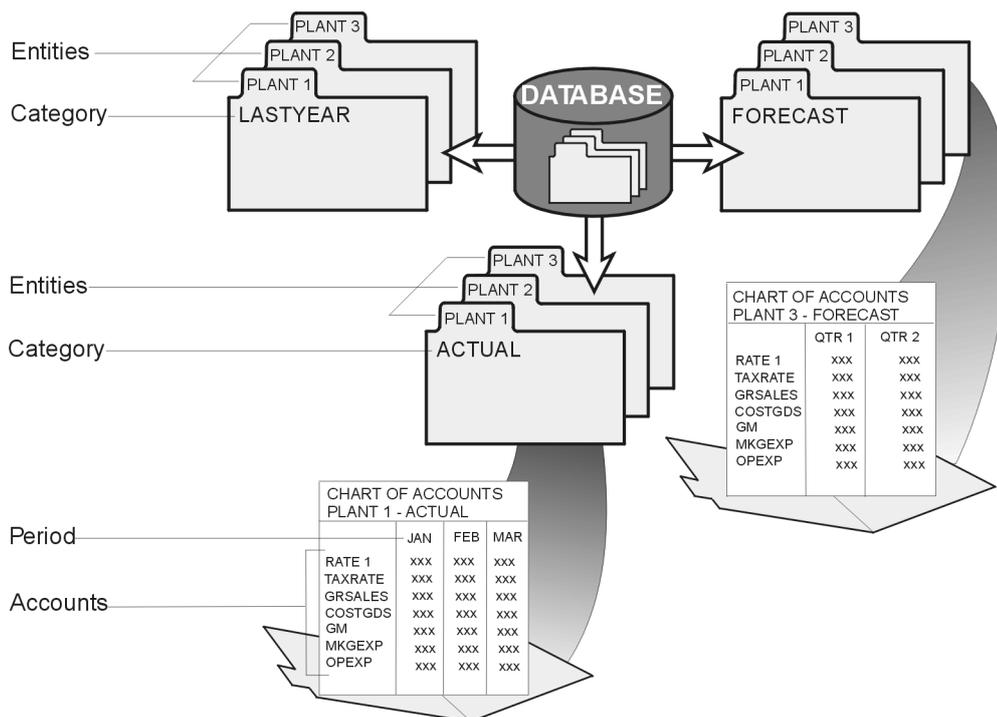


図7のデータベースには、エンティティ、データ種別および期間を保存するための各フォルダが含まれています。データは、Forecast、Actual および Last Year に分類されています。各データ種別には、Plant 1、Plant 2 および Plant 3 のエンティティを保存するためのフォルダが含まれています。各エンティティのフォルダには同じ勘定科目表が含まれていますが、保存されている勘定科目表はデータ種別によって異なります。勘定科目表のデータは、期間別に表示されています。

例えば、Forecast データ種別の Plant 3 に関する勘定科目表には、Quarter 1、Quarter 2 などの四半期ごとのデータが示され、Actual データ種別の Plant 1 に関する勘定科目表には、January、February、March などの月次データが示されています。

データ種別

予算データ、実績データ、予測データなど、管理できる各種データタイプを区別するためにデータ種別を使用します。各データ種別には、期間単位を指定する必要があります。期間単位は、日次、週次、月次など、データ種別によってデータが収集される間隔を定義します。

各データ種別には、デフォルトのデータ表示形式も設定されています。デフォルトのデータ表示形式は、個々の期間のデータを表示する期別、または各期間のデータ種別累計データを表示する累計のどちらかになります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「基本要素の定義」の章を参照してください。

期間

期間は、データ種別内の時間セグメントを表したものです。例えば、期間単位が週次であるデータ種別の場合、1年間のデータは52期間に保存され、期間単位が月次であるデータ種別の場合、1年間のデータは12期間に保存されます。

期間単位の期間数はカスタマイズすることもできます。例えば、月次の期間単位に対して 13 期間を指定すると、12 か月分のデータと 1 か月分の年末調整を追跡する場合に便利です。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「基本要素の定義」の章を参照してください。

勘定科目

勘定科目には、アプリケーション内の各エンティティ、データ種別および期間に関するデータが含まれています。勘定科目とサブ勘定科目に対しては、データの入力、関連情報の仕訳帳入力、レポートに含めるデータの検索などを実行します。

勘定科目には、データを詳細に定義するためのサブ勘定科目が最高 2 レベル含まれている場合があります。例えば、Sales という主要勘定科目は、Sales.Electronics という第 1 レベルサブ勘定科目と Sales.Electronics.VCR という第 2 レベルサブ勘定科目で構成される場合があります。Sales 勘定科目の値は、すべてのサブ勘定科目の値を加算することにより算出されます。勘定科目またはサブ勘定科目について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「勘定科目の定義」の章を参照してください。

勘定科目表は、収益勘定科目、貸借対照表勘定科目、統計勘定科目などの勘定グループに分類されます。勘定グループは、アプリケーションに固有のニーズに基づいてカスタマイズできます。勘定科目グループについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「勘定科目の定義」の章を参照してください。

エンティティ

エンティティとは、組織を構成するレポート要素のことです。エンティティは、子会社、部門、工場、製品など、任意のレポート単位を表すことができます。組織内の任意のエンティティのデータを入力して管理したら、それらのデータを検索したり、レポートを作成したりできます。

特定のデータタイプをアプリケーションで管理するには、それらのデータを追跡するエンティティを設定する必要があります。例えば、地域を表すエンティティを設定すると、地域別データを管理できるようになります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「組織の定義」の章を参照してください。

アプリケーションへのアクセス

アプリケーションとは、組織、勘定科目、データ種別など、まとめて使用するシステム要素のセットのことです。アプリケーションは、会社のニーズに基づいてシステム管理者によって作成されます。例えば、あるアプリケーションでは複数の組織の税務データを処理し、別のアプリケーションではその他の組織の予算データを処理することができます。

Hyperion Enterprise 内の既存のアプリケーションを開くこともできます。また、既存アプリケーションの一覧のアプリケーション名を追加または削除することもできます。アプリケーションを開いたり、追加または削除を行うには、[アプリケーションを開く] ダイアログボックスを使用します。[Enterprise ログイン] ダイアログボックスを使用しても、アプリケーションを開いたり追加したりすることができます。

アプリケーションを開く

アプリケーションを開いて、データの操作やレポートの作成を行います。各 Hyperion Enterprise セッションにおいて、それぞれ 1 つのアプリケーションしか開くことができません。複数の Hyperion Enterprise アプリケーションを同時に実行するには、別の Hyperion Enterprise セッションを開始する必要があります。

ヒント： アプリケーションのアイコンを作成すると、そのアイコンをダブルクリックしてアプリケーションを開くことができます。

▶ アプリケーションを開くには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise デスクトップで、[ファイル]、[アプリケーションを開く] を選択し、適切なアプリケーションを選択して、[OK] をクリックします。
- Windows のプログラムマネージャで、アプリケーションのアイコンを選択します。
- DOS プロンプトで「win hypent <アプリケーション>」と入力し、[Enter] キーを押します。<アプリケーション>の部分には、アプリケーションの ID が入ります。

ヒント： Hyperion Enterprise の起動方法については、37 ページの「Hyperion Enterprise の起動」を参照してください。

2 ユーザ名とパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

アプリケーションの追加

アプリケーションのリストには、管理者によって定義されている任意のアプリケーションを追加できます。Hyperion Enterprise が必要とする各アプリケーションの情報は、そのアプリケーションがファイルベースのシステムに保存されているか、データベースサーバに保存されているかによって異なります。

▶ アプリケーションを追加するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- [Hyperion Enterprise ログイン] ダイアログボックスで、[アプリケーション] ドロップダウンリストから [アプリケーションの追加] を選択します。
- デスクトップで、[ファイル] メニューから [アプリケーションを開く] を選択し、[追加] をクリックします。

2 追加するアプリケーションのデータベースドライバを選択し、[OK] をクリックします。

3 次のいずれかの操作を行います。

- ファイルサーバまたはスタンドアロンの PC に保存されたアプリケーションを追加するには、アプリケーションが保存されているドライブとディレクトリを指定します。

- [ドライブ] リストに表示されないファイルサーバに保存されたアプリケーションを追加するには、[ネットワーク] を選択し、ワークステーションを目的のドライブに関連付け、アプリケーションが保存されているディレクトリを選択します。
- データベースサーバに保存されたアプリケーションを追加するには、そのアプリケーションのデータベースのサーバ名、データベース名、データベースのユーザ名、データベースのパスワードを指定します。

4 [OK] をクリックします。

5 次のいずれかの操作を行います。

- アプリケーションを開く場合は、[OK] をクリックします。
- アプリケーションを開かずに [アプリケーションを開く] ダイアログボックス閉じる場合は、[キャンセル] を選択します。

アプリケーションの除去

アプリケーションにアクセスする必要がなくなった場合は、[アプリケーション] リストから、そのアプリケーション ID を除去できます。例えば、[アプリケーション] リストに不要になった欧州計画のアプリケーションが含まれる場合、[アプリケーション] リストから、このアプリケーションを除去できます。

アプリケーション ID を除去すると、その ID が [アプリケーション] リストから削除されますが、アプリケーションファイルは削除されません。アプリケーションファイルとディレクトリは、すべてそのまま残ります。

▶ アプリケーションを除去するには、次の手順に従います。

- 1 デスクトップで、[ファイル] メニューの [アプリケーションを開く] を選択します。
- 2 除去するアプリケーション ID を選択します。
- 3 [除去] をクリックします。
- 4 [アプリケーションを開く] ダイアログボックスを閉じるには、[キャンセル] をクリックします。

アプリケーション要素の変更

アプリケーション要素を変更すると、既存の要素を開いて表示、定義、および編集したり、既存の要素を削除またはコピーしたりできます。この項では、アプリケーション要素を開いたり、削除またはコピーするための標準的な手順について説明します。

アプリケーション要素を開く

アプリケーション要素を開いて、表示、定義、および編集します。また、サブ勘定科目表や計算式のような要素を追加、編集、移動することもできます。

アプリケーション要素を開くには、システム内の任意のウィンドウで、[ファイル] メニューの [<要素>を開く] コマンドを使用します。ここで<要素>は、現在

表示しているウィンドウ名と一致します。たとえば、[仕訳帳] ウィンドウでは、[ファイル] メニューの [仕訳帳を開く] を選択します。

注： 表示中のウィンドウを変更するには、[ナビゲート] メニューを使用します。詳しくは、42 ページの「[ナビゲート] メニュー」を参照してください。

- ▶ アプリケーション要素を開くには、次の手順に従います。
- 1 適切なウィンドウで、[ファイル] メニューから [<要素>を開く] を選択します。ここで、<要素>は、現在表示しているウィンドウ名と一致します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 要素 ID を編集ボックスに入力するか、リストから選択して、[OK] をクリックします。
 - チェックボックスを使用してリストをフィルタし、開くアプリケーション要素を選択して [OK] をクリックします。

アプリケーション要素のコピー

アプリケーション要素をコピーし、既存の要素に基づいて新しい要素を作成します。既存の要素をコピーする際、名前を変更すると新しい要素が作成されます。例えば、既存のデータ入力表と同じセキュリティクラス、勘定科目一覧、およびオプションを持つ新しいデータ入力表を作成するとします。元のデータ入力表をコピーする場合は、[データ入力表のコピー] ダイアログボックスに、新しいデータ入力表の一意の ID を入力する必要があります。

アプリケーション要素をコピーするには、システム内の任意のウィンドウで、[ファイル] メニューの [<要素>のコピー] コマンドを使用します。ここで<要素>は、現在表示しているウィンドウ名と一致します。例えば、[サブ勘定科目表] ウィンドウでは、[ファイル] メニューから [サブ勘定科目表のコピー] を選択します。

- ▶ アプリケーション要素をコピーするには、次の手順に従います。
- 1 適切なウィンドウで、[ファイル] メニューの [コピー] を選択します。
- 2 チェックボックスが使用可能な場合は、それらを使用してリストをフィルタします。
- 3 コピーするアプリケーション要素を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

アプリケーション要素の削除

不要になったアプリケーション要素は削除できます。例えば、レポート作成で使われなくなった通貨を削除することができます。削除した通貨はウィンドウから除去されます。

アプリケーション要素を削除するには、システム内の任意のウィンドウで、[ファイル] メニューの [<要素>の削除] コマンドを使用します。ここで<要素>は、現

在表示しているウィンドウ名と一致します。例えば、[組織] ウィンドウでは、[ファイル] メニューから [組織の削除] を選択します。

表のアプリケーション要素は、[編集] メニューの [行の削除] メニューオプションを使用して削除することもできます。以下に、表内で削除できるアプリケーション要素を示します。

- 勘定グループ
- 勘定科目
- サブ勘定科目
- データ種別
- コード
- 通貨
- カスタム関数

表内のアプリケーション要素を削除する方法については、[54 ページの「表からのアプリケーション要素の削除」](#)を参照してください。

注： 現在使用中のアプリケーション要素は削除できません。Hyperion Enterprise でアプリケーション要素を削除すると、連結ステータスに影響する場合があります。特定のアプリケーション要素については、該当する章を参照してください。

- ▶ アプリケーション要素を削除するには、次の手順に従います。
 - 1 適切なウィンドウで、[ファイル] メニューの [削除] を選択します。
 - 2 チェックボックスが使用可能な場合は、それらを使用してリストをフィルタします。
 - 3 削除するアプリケーション要素を選択します。
 - 4 [OK] をクリックします。

表の操作

Hyperion Enterprise の表を使用すると、データ種別や勘定科目などのアプリケーション要素を定義できます。表内のアプリケーション要素を定義すると、一度に複数の要素を表示できるようになります。

表を操作する際は、ウィンドウ内の領域を選択して、個々の行や列、表全体、個々のセルなどをハイライト表示できます。表をスクロールするか、キーボードショートカットを使用すると、表内を移動できます。また、勘定科目詳細の表示と非表示を切り替えるか、列幅を変更すると、個々の表の書式を設定できます。Hyperion Enterprise の表に対しては、アプリケーション要素の追加や削除を行うこともできます。

セルブロックの選択

表中のセルのブロックを選択し、ハイライトされたすべてのセルで、データを一度に変更または入力できます。データの行、データの列、セルのブロック、または表全体をハイライトできます。

- ▶ セルブロックを選択するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 行をハイライトするには、行の左の列の ID または説明を選択します。
 - 列をハイライトするには、列の上部の ID を選択します。
 - セルのブロックをハイライトするには、まず特定のセルを選択します。次に、クリックしてドラッグし、ハイライトするセルを選択します。
 - 表全体をハイライトするには、表の左上の見出しセルを選択します。

表のスクロール

ウィンドウのスクロールバーを使用して、Hyperion Enterprise の表内で移動することができます。

- ▶ 表をスクロールするには、次のいずれかの操作を行います。
 - 行を 1 行分下にスクロールするには、下方向ボタンを選択します。
 - 列を 1 列分スクロールするには、水平方向のスクロールバーの方向ボタンを選択します。
 - 画面を下にスクロールするには、垂直方向のスクロールボックスの下のスクロールバー領域を選択します。
 - 画面を横にスクロールするには、水平方向のスクロールボックスの隣のスクロールバー領域を選択します。
 - 表の任意の場所にスクロールするには、スクロールボックスをドラッグします。

キーボードショートカット

表 9 は、表の一部を移動したり選択したりするために使用できるキーボードショートカットについて説明したものです。

表 9 キーボードショートカット

キーまたはその組み合わせ	用途
[Home] キー	カーソルを最初の列に移動します。
[End] キー	カーソルを最後の列に移動します。
[Ctrl] キーを押しながら [Home] キーを押す	カーソルを最初の行の最初の列に移動します。
[Ctrl] キーを押しながら [End] キーを押す	カーソルを最後の行の最後の列に移動します。

キーまたはその組み合わせ	用途
[Shift] キーを押しながら [Home] キーを押す	行全体を選択します。
[Shift] キーを押しながら [End] キーを押す	現在の行の最後のセルまで選択範囲を拡大します。

表内の詳細の表示／非表示

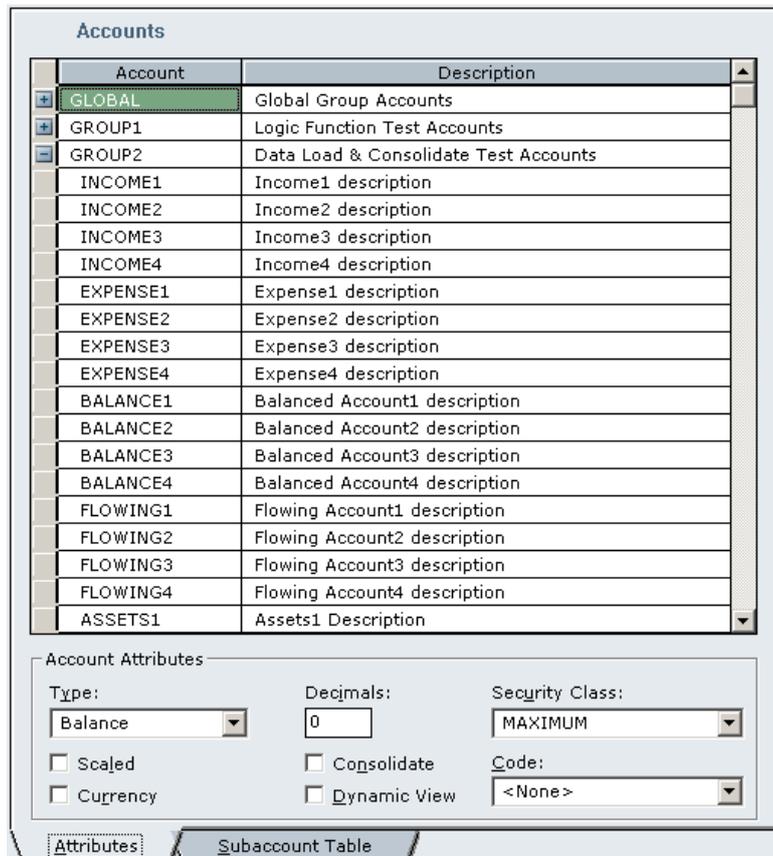
Hyperion Enterprise のウィンドウの多くには、勘定科目を勘定科目表順に、またはエンティティを組織順に一覧にした表が含まれます。これらの表では、勘定科目やエンティティの詳細を表示または非表示にできます。以下のウィンドウで、詳細の表示／非表示を切り換えることができます。

- 勘定科目表
- データベース
- 計算式
- データ入力表
- サブ勘定科目表
- 連結

詳細が非表示になっている場合、勘定科目またはエンティティの ID の前にプラス記号 (+) が表示され、[タスク] メニューの [表示] コマンドが使用可能になります。勘定科目またはエンティティの詳細が表示されている場合は、ID の前にマイナス記号 (-) が表示され、[タスク] メニューの [非表示] コマンドが使用可能になります。

図 8 は、詳細が表示された勘定科目と詳細が非表示になった勘定科目の両方が含まれている [勘定科目表] ウィンドウを示したものです。

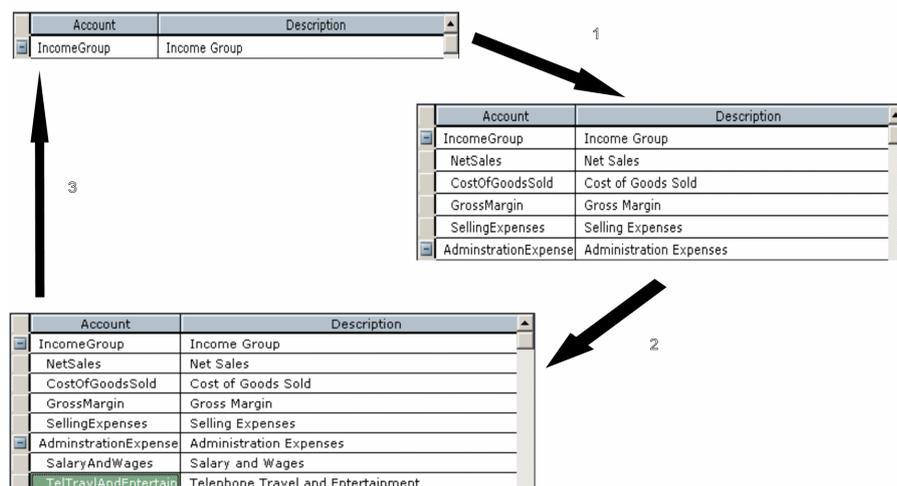
図 8 勘定科目表の詳細の表示と非表示



勘定科目またはサブ勘定科目の詳細を表示するには、勘定科目または勘定グループの詳細を表示します。子または下位構造を表示するには、エンティティの詳細を表示します。[表示] コマンドを選択すると、表に勘定科目が含まれている場合は勘定グループ、勘定科目またはサブ勘定科目の詳細が表示され、表にエンティティが含まれている場合は子エンティティが表示されます。[すべてを表示] コマンドを選択すると、現在の選択項目より下位にあるすべてのレベルの詳細が表示されます。[非表示] コマンドを選択すると、すべてのレベルの詳細が非表示になります。

図 9 は、[勘定科目表] ウィンドウの Income 勘定グループの詳細が、[表示]、[すべてを表示] および [非表示] の各コマンドによってどのように展開または縮小されるかを示したものです。

図 9 表示および非表示オプションの使用



1. プラス記号 (+) を使用すると、Income 勘定グループのすべての勘定科目を表示できます。
2. [表示] メニューの [すべてを表示] メニューオプションを使用すると、Administration Expenses 勘定科目のすべてのサブ勘定科目を表示できます。
3. マイナス記号 (-) を使用すると、Income 勘定グループのすべての勘定科目の詳細を非表示にできます。
4. 勘定科目表または組織表の左上隅を選択すると、表全体を展開または縮小できます。

▶ 表内の詳細を表示または非表示にするには、次の手順に従います。

- 1 [勘定科目表]、[データベース]、[計算式]、[データ入力表]、[サブ勘定科目表]、または [連結] ウィンドウで、勘定グループ、勘定科目、またはエンティティの ID を選択します。
- 2 以下のように、詳細の表示/非表示を指定します。
 - 詳細を表示するには、[表示] メニューから [表示] を選択するか、勘定グループ、勘定科目またはエンティティの前に表示されたプラス記号 (+) をクリックします。
 - 選択した勘定グループについて全レベルの詳細を表示するには、[表示] メニューから [すべてを表示] を選択します。
 - 詳細が非表示になっている場合、ウィンドウ内のすべての勘定科目またはエンティティについての詳細をすべて表示するには、表の左上隅を選択します。
 - 詳細を非表示にするには、[表示] メニューから [非表示] を選択するか、ID の前に表示されたマイナス記号 (-) を選択します。
 - ウィンドウ内のすべての勘定科目またはエンティティについての詳細をすべて非表示にするには、[表示] メニューから [表の縮小] を選択するか、詳細が表で表示されている場合は勘定科目表の左上隅をクリックします。

列幅の変更

表の列幅は必要に応じて調整できます。ほとんどの場合、表の列はデフォルトで標準幅に設定されています。

[データ入力] および [ロジック] ウィンドウでは、[オプションの設定] ダイアログボックスを使用して表の全列を調整できます。[データ入力] ウィンドウについて詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「データ入力表へのデータの入力」の章を参照してください。[ロジック] ウィンドウについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「計算式の定義」の章を参照してください。

- ▶ 列幅を変更するには、列の右側の枠線をドラッグするかダブルクリックします。

表内のアプリケーション要素の変更

Hyperion Enterprise の表に対しては、次のアプリケーション要素の追加または削除を行うことができます。

- 勘定グループ
- 勘定科目
- サブ勘定科目
- データ種別
- コード
- 通貨
- カスタム関数

表へのアプリケーション要素の追加

[編集] メニューの [挿入] コマンドを使用すると、アプリケーション要素を表に追加できます。

- ▶ アプリケーション要素を表に追加するには、適切な表で次のいずれかの操作を行います。
 - 勘定グループを追加するには、[編集] メニューの [挿入] から [グループ] を選択します。
 - 勘定科目を追加するには、[編集] メニューの [挿入] から [勘定科目] を選択します。
 - サブ勘定科目、データ種別、コード、通貨、カスタム関数などを追加するには、[編集] メニューから [行の挿入] を選択します。

表からのアプリケーション要素の削除

アプリケーション要素が不要になった場合は、それを表から削除できます。例えば、勘定科目表から勘定グループを削除すると、アプリケーションからそのグループが削除されます。

- ▶ アプリケーション要素を表から削除するには、次の手順に従います。
 - 1 適切な表で、削除する要素を選択します。
 - 2 [編集] メニューから [行の削除] を選択します。

5

Hyperion Enterprise Web

この章の内容

Hyperion Enterprise Web ページ.....	55
アプリケーションへのログオン.....	60
アプリケーションからのログオフ.....	60
Web アプリケーションの変更.....	61

Hyperion Enterprise Web ページ

Hyperion Enterprise Web 内で行うすべての操作は Hyperion Enterprise Web ページから開始します。[ログオン] ページにユーザ名とパスワードを入力した後で表示されます。[ホーム] ページには、さまざまな Hyperion Enterprise Web 機能へのリンクが含まれたモジュールボックスがあります。

図 10 に、Hyperion Enterprise Web インターフェイスの一般的なレイアウトを示します。

図 10 Hyperion Enterprise Web インターフェイス

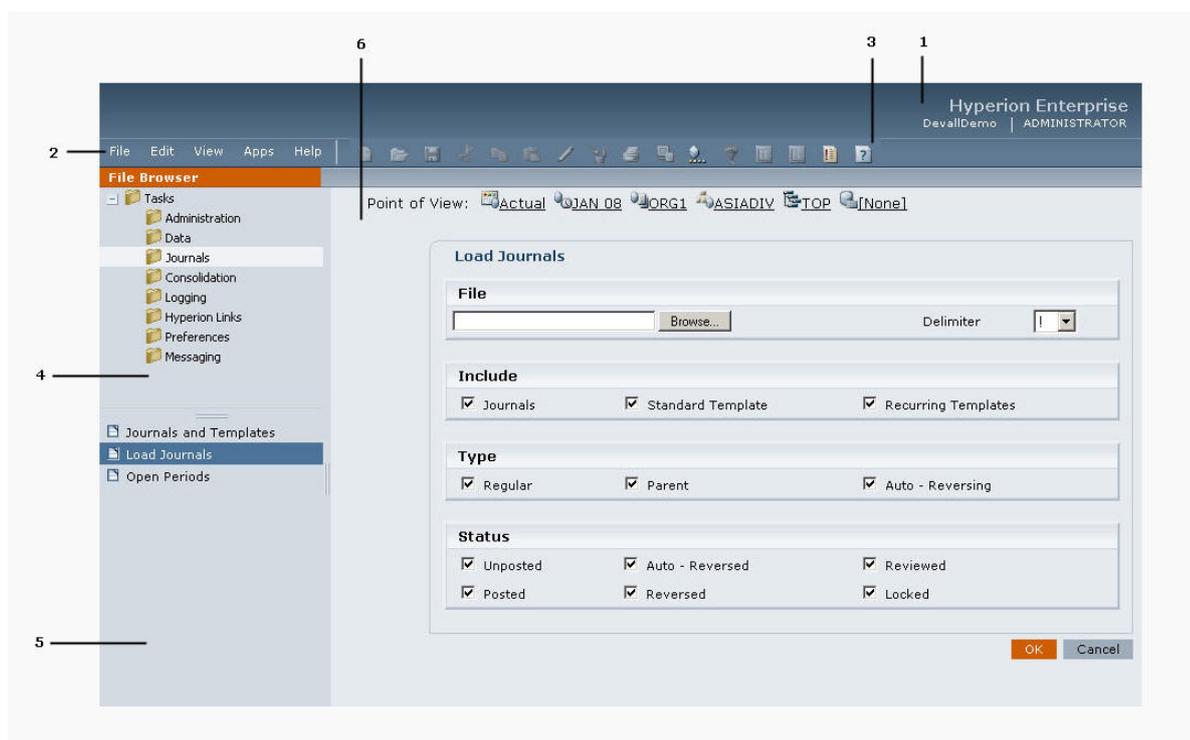


表 10 Hyperion Enterprise Web インターフェイスの項目

1	マストヘッド	マストヘッドには、組織のロゴ、製品名、アプリケーション名およびユーザ名が表示されます。
2	システムメニュー	システムメニューには、アクティブなページが示されます。このメニューからは、Hyperion Enterprise Web のヘルプシステム、Hyperion Enterprise の [管理] ページ、Hyperion Enterprise Web ページ、ヘルプ、[ログオフ] ページなどにすばやくアクセスすることができます。
3	アイコンツールバー	アイコンツールバーには、アクティブなページで使用できるコマンドのアイコンが表示されます。
4	グローバル選択フレーム	グローバル選択フレームには、Hyperion Enterprise Web に含まれているモジュールが表示されます。
5	ローカル選択フレーム	ローカル選択フレームには、各モジュールで実行できるタスクが表示されます。
6	コンテンツ領域またはコンテンツフレーム	コンテンツ領域またはコンテンツフレームには、タスク関

データの視点バー

データの視点（POV）バーには、現在のデータ種別、レポート期間、組織、エンティティ、勘定科目、親およびデータ入力表が表示されます。アプリケーションを作成するときに連結詳細オプションを選択すると、連結詳細を表示することもできます。図 11 に、Hyperion Enterprise Web データの視点バーの例を示します。

図 11 Hyperion Enterprise Web データの視点バーの例

Point of View: Actual JAN 05 ORG1 ASIADIV [None] [None]

ツールバー

ツールバーでは、マウスをクリックするだけで、Hyperion Enterprise Web で使用される数多くのメニューコマンドにアクセスできます。ツールバーは、すべての Web ページでマストヘッドの下に表示されます。すべての Web ページですべてのメニューコマンドが使用できるとは限りません。現在の Web ページで使用できないメニューコマンドは選択できないようになっています。

特定のツールバーアイコンに対応しているメニューオプションの機能がわからない場合は、マウスのポインタをアイコンの上に配置すると、ツールバーアイコンの説明が表示されます。

- ▶ ツールバーの表示と非表示を切り替えるには、[表示形式] メニューから [ツールバー] を選択します。

Hyperion Enterprise Web で使用可能なツールバーのアイコンは次のとおりです。

-  現在の Web ページで要素を作成するには、[新規作成] アイコンをクリックします。例えば、[仕訳帳とテンプレート] Web ページでこのアイコンをクリックすると、新規の仕訳帳を作成できます。このアイコンは、[ファイル] メニューの [新規作成] コマンドと同じ機能を持っています。
-  現在の Web ページで要素を表示するには、[開く] アイコンをクリックします。例えば、[仕訳帳とテンプレート] Web ページでこのアイコンをクリックすると、仕訳帳を開くことができます。このアイコンは、[ファイル] メニューの [開く] コマンドと同じ機能を持っています。
-  現在の Web ページのデータを保存するには、[保存] アイコンをクリックします。このアイコンは、[ファイル] メニューの [保存] コマンドと同じ機能を持っています。
-  選択したデータを削除して、クリップボードに保存するには、[切り取り] アイコンをクリックします。このアイコンは、[編集] メニューの [切り取り] コマンドと同じ機能を持っています。
-  選択したデータをコピーして、クリップボードに保存するには、[コピー] アイコンをクリックします。このアイコンは、[編集] メニューの [コピー] コマンドと同じ機能を持っています。

-  クリップボードの内容をカーソルの位置に挿入し、選択したデータを置換するには、[貼り付け] アイコンをクリックします。このアイコンは、[編集] メニューの [貼り付け] コマンドと同じ機能を持っています。
-  [編集] アイコンは選択できません。
-  Web ページ内の選択したコンテンツを削除するには、[削除] アイコンをクリックします。例えば、[仕訳帳とテンプレート] Web ページでこのアイコンをクリックすると、仕訳帳を削除できます。このアイコンは、[編集] メニューの [削除] コマンドと同じ機能を持っています。
-  Web ページのコンテンツ領域に表示された内容を印刷するには、[印刷] アイコンをクリックします。例えば、[仕訳帳とテンプレート] Web ページでこのアイコンをクリックすると、仕訳帳の一覧を印刷できます。このアイコンは、[ファイル] メニューの [印刷] コマンドと同じ機能を持っています。
-  プリンタに出力する可能性がある内容を表示するには、[印刷プレビュー] アイコンをクリックします。
-  [データの視点] ダイアログボックスを開くには、[データの視点の編集] アイコンをクリックします。このダイアログボックスでは、異なるデータ種別、期間、組織、エンティティ、勘定科目、期間単位、単位、データ表示形式またはデータ入力表を選択できます。
-  [仕訳帳とテンプレート] Web ページから [フィルタ/条件] Web ページを開くには、[フィルタ] アイコンをクリックします。このアイコンは、[仕訳帳とテンプレート] Web ページからのみ選択できます。
-  [データの表示] Web ページのデータの表示ステータスを [データ種別累計] に変更するには、[期別] アイコンをクリックします。
-  [データの表示] Web ページのデータの表示ステータスを [期別] に変更するには、[データ種別累計] アイコンをクリックします。
-  Hyperion Enterprise の使用中に発生したエラーまたはイベントに関する情報を表示するには、[イベントログ] アイコンをクリックします。このアイコンは、すべての Web ページで使用できます。
-  Web ヘルプを開き、アクティブな Web ページに関するヘルプトピックを表示するには、[ヘルプ] アイコンをクリックします。このアイコンは、すべての Web ページで使用できます。

Web モジュール

Hyperion Enterprise Web の [ホーム] ページからは、アプリケーション、ログ、データ、およびツールの各モジュールにアクセスできます。これらのモジュールは、[ホーム] ページでボックスで表されています。表 11 に、Hyperion Enterprise Web モジュールと、各モジュールで実行できるタスクを示します。

表 11 Hyperion Enterprise Web モジュール

モジュール	タスク
管理	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーションの設定 ● アプリケーションの変更* ● ログオフ ● モデルの管理 (オプション)

モジュール	タスク
	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの管理（オプション）
データ	<ul style="list-style-type: none"> ● データの表示 ● データを読み込みます。 ● 連結ステータスのチェック ● データの連結 ● FDM データの表示
仕訳帳	<ul style="list-style-type: none"> ● 期間を開く ● 仕訳帳の読み込み ● 仕訳帳読み込みアクティビティのフィルタ ● テンプレートの設計 ● テンプレートに基づく仕訳帳の作成 ● 仕訳帳を開く ● 仕訳帳の削除 ● 仕訳帳のフィルタ ● 仕訳帳の承認 ● 仕訳帳の転記 ● 仕訳帳の転記取り消し ● 仕訳帳フォームの更新 ● 仕訳帳の詳細の印刷
連結	<ul style="list-style-type: none"> ● データの連結 ● 連結ステータスの表示
ログ	<ul style="list-style-type: none"> ● タスクステータスの表示。[†] ● イベントログの表示 ● アプリケーションログの表示
Hyperion リンク	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise Reporting Web ページ ● Oracle の企業 Web サイト ● 開発者用ネットワーク
設定変更	ユーザー設定変更
メッセージ	Hyperion Enterprise Web Messaging Client

*この機能を使用できるのは管理者のみです。

[†]管理者は、どのユーザのタスクでも表示できます。管理グループに所属しないユーザは、自分の Web タスクしか表示できません。

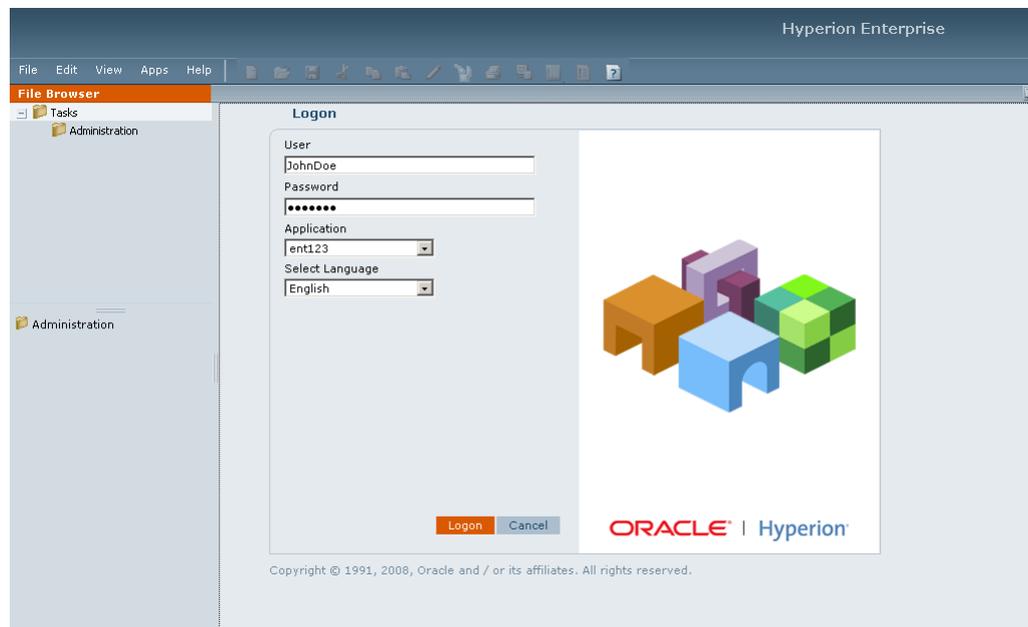
Web セッションのタイムアウト

Hyperion Enterprise Web セッションは、アクティビティのない時間が 20 分続くとタイムアウトし、リソースを解放するようになっています。Web セッションがタイムアウトした後で、Web サーバにアクセスすると、[ログオン] ページが表示されます。このページには、セッションがタイムアウトしたため、ログオンし直す必要があることを示すメッセージが表示されます。

アプリケーションへのログオン

Hyperion Enterprise Web にログオンすると、[図 12](#) に示す最初のダイアログボックスが表示されます。

図 12 最初のダイアログボックス



このダイアログボックスでは、アプリケーションを選択し、それに対応する Hyperion Enterprise ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。[アプリケーション] ドロップダウンリストには、Web 対応のアプリケーションしか表示されません。

▶ アプリケーションにログオンするには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise の [ログオン] ページで、ログオンするアプリケーションを [アプリケーション] ドロップダウンメニューから選択します。

ヒント: アプリケーションにすばやく移動するには、[アプリケーション] ボックスをハイライトし、アプリケーション名の最初の文字を入力します。これにより、名前がその文字で始まる最初のアプリケーションが、[アプリケーション] ボックスに自動的に表示されます。

- 2 [ユーザー] テキストボックスに、ユーザ名を入力します。
- 3 [パスワード] テキストボックスに、パスワードを入力します。
- 4 [言語の選択] ドロップダウンリストから、表示言語を選択します。
- 5 [ログオン] をクリックします。

アプリケーションからのログオフ

特定のアプリケーションでの作業が終了したら、そのアプリケーションからログオフして、別のアプリケーションにログオンすることができます。

- ▶ アプリケーションからログオフするには、次のいずれかの操作を行います。
 - 任意の Hyperion Enterprise Web ページで、[ファイル] メニューから [ログオフ] を選択して、[はい] をクリックします。
 - 任意の Hyperion Enterprise Web ページで、[アプリケーション] メニューから [アプリケーションの設定] を選択して、[はい] をクリックします。
 - 任意の Hyperion Enterprise Web ページのグローバル選択フレームで、[タスク]、[管理] の順に選択し、ローカル選択フレームで、[ログオフ]、[はい] の順に選択します。

Web アプリケーションの変更

Hyperion Enterprise Web アプリケーションは、Web セッション中にいつでも変更できます。アプリケーションを変更すると、[ログオン] ページが再び表示され、別のアプリケーションを開けるようになります。

- ▶ Hyperion Enterprise Web デスクトップから現在のアプリケーションを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 グローバル選択フレームで [管理] を選択します。
管理モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。
 - 2 ローカル選択フレームで [アプリケーションの変更] を選択します。
アプリケーションの変更フレームが表示されます。
 - 3 アプリケーションを変更する場合は [はい] をクリックし、現在のアプリケーションを開いたままにする場合は [いいえ] をクリックします。
- ▶ Hyperion Enterprise Web ページから現在のアプリケーションを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 任意のページのシステムメニューで [アプリケーション] を選択します。
現在のセッションを終了するかどうかを尋ねる、次のメッセージが表示されます。

図 13 メッセージウィンドウ



注： メッセージが表示された状態で [戻る] ボタンをクリックすると、Hyperion Enterprise Web を起動するために使用したページが再び表示されます。例えば、Hyperion Enterprise Web を起動した場合。

- 2 アプリケーションを変更する場合は [はい] をクリックし、現在のアプリケーションを開いたままにする場合は [いいえ] をクリックします。

この章の内容

Hyperion Enterprise マニュアルの使用.....	63
Hyperion Enterprise ヘルプへのアクセス.....	64

Hyperion Enterprise マニュアルの使用

Hyperion Enterprise マニュアルは、オンラインヘルプシステム、印刷可能なマニュアルファイルおよび印刷されたガイドで構成されています。オンラインヘルプについて詳しくは、64 ページの「[Hyperion Enterprise ヘルプへのアクセス](#)」を参照してください。

Adobe Acrobat PDF 形式の印刷可能なマニュアルファイルの機能は次のとおりです。

- ドキュメント間の検索と移動
- 索引付きキーワード検索
- すばやい移動
- 印刷機能
- 注釈機能
- ローカルおよびネットワークのアクセス
- オンラインヘルプからのリンク

PDF ファイルを表示および印刷するには、Adobe Acrobat Reader を使用します。

▶ PDF ファイルを表示および印刷するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- Windows デスクトップまたは [スタート] メニューで [Acrobat Reader] アイコンをダブルクリックし、Hyperion のディレクトリから PDF ファイルを開きます。
- Hyperion Enterprise オンラインヘルプ内で [ヘルプ] を選択し、PDF ファイルを選択します。
- Hyperion Enterprise 内で [ヘルプ] メニューから [オンラインガイド (PDF)] を選択し、PDF ファイルを選択します。

2 [ファイル] メニューの [印刷] を選択し、印刷するページと部数を選択または入力して [OK] をクリックします。

Hyperion Enterprise ヘルプへのアクセス

各 Hyperion Enterprise 製品は、オンラインヘルプシステムおよび [ヘルプ] アイコンとともにインストールされます。オンラインヘルプシステムには、製品ソフトウェアからアクセスするか、Hyperion Solutions プログラムグループの [ヘルプ] アイコンを使用してアクセスできます。Hyperion Enterprise オンラインヘルプシステムは、すべてのウィンドウおよびダイアログボックスのコントロールやオプションに関する、コンテキストに応じた情報を提供します。また、Hyperion Enterprise アプリケーションの設定、管理および使用の手順も提供されます。オンラインヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] メニューのオプションを選択するか、[F1] キーを押すか、ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンを選択します。

Hyperion Enterprise のヘルプには、Microsoft Windows ヘルプシステムの標準の機能が備わっています。ヘルプにアクセスすると、現在のタスクの完了に必要な情報が表示されます。付属のナビゲーションツールには、ヘルプシステム内の現在位置、前のヘルプ画面に戻る方法および関連情報の検索方法が示されます。

ヒント： Windows のヘルプシステムを使い慣れていない方は、Hyperion Enterprise の任意のウィンドウで [ヘルプ] メニューの [ヘルプの使用方法] を選択してください。

▶ Hyperion Enterprise のヘルプにアクセスするには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- 現在表示されているダイアログボックスに関する情報を表示するには、[F1] キーを押すか、[ヘルプ] を選択します。
- 現在表示されているウィンドウに関する情報を表示するには、[F1] キーを押すか、[ヘルプ] ツールバーボタンを選択します。
- 特定の用語または語句を含むトピックを検索するには、[ヘルプ] ツールバーボタンをダブルクリックするか、[ヘルプ] ウィンドウで [検索] をクリックします。
- ヘルプの目次を表示するには、Hyperion Enterprise の [ヘルプ] アイコンを選択するか、システム内の任意のウィンドウで [ヘルプ] メニューから [目次と索引] を選択します。

2 Hyperion Enterprise のヘルプを常に画面に表示しておくには、[ヘルプ] ウィンドウで、[ヘルプ] メニューから [手前に表示] を選択します。

3 ヘルプを終了するには、[ヘルプ] ウィンドウで、[ファイル] メニューから [終了] を選択します。

表 12 に、Hyperion Enterprise のヘルプ内での移動方法を示します。

表 12 オンラインヘルプ内での移動方法

移動方法	説明
[目次] ウィンドウ	トピックの一覧を [目次] ウィンドウに表示します。

移動方法	説明
閉じたパッケージ	閉じたパッケージは、展開可能な一覧を示します。閉じたパッケージを含むトピックをクリックすると、追加のリンクの一覧が表示されます。
開いたパッケージ	開いたパッケージは、展開されているトピック一覧を示します。
矢印	テキストの前の矢印は、さらに別のトピックを表示するために選択するリンクを示します。例えば、「仕訳帳の入力」を選択した場合は、そのためのウィンドウと手順を表示できます。
[デスクトップ] ウィンドウ	[モジュール] アイコンを選択して、そのモジュールのウィンドウとダイアログボックスの一覧を表示します。
[目次] ボタン	このボタンを選択し、オンラインヘルプシステムの任意の場所からデフォルトの [目次] ウィンドウに戻ります。
[検索] ボタン	このボタンを選択し、オンラインヘルプシステム内の任意のトピックに対するキーワード検索を実行します。詳細が必要なトピックの最初の数文字を入力し、特定のトピックのタイトルを選択し、[表示] を選択してそのトピックを表示します。
[戻る] ボタン	このボタンを選択して、現在表示されているトピックの直前に表示していたヘルプトピックを表示します。このボタンを繰り返し選択すると、現在のヘルプセッションでそれまでに表示したトピックを順次さかのぼって表示できます。
[デスクトップ] ボタン	このボタンを選択し、オンラインヘルプの任意の場所からヘルプシステムのデスクトップに戻ります。
[ウィンドウ] ボタン	モジュール内のウィンドウの一覧を表示します。トピック名をダブルクリックすると、そのウィンドウの情報が表示されます。
[手順] ボタン	モジュール内で実行可能な手順の一覧を表示します。トピック名をダブルクリックすると、その手順が表示されます。各手順には、概要情報へのリンクが含まれています。
トピック内の緑の下線付きリンク	このリンクを選択して、別のヘルプトピックの詳細情報を表示します。
[ファイル] メニュー	このメニューを選択して別の Windows ベースのヘルプ (.HLP) ファイルを開くか、現在表示されているトピックを印刷するか、ヘルプシステムを終了します。
[編集] メニュー	このメニューを選択してトピックの内容をコピーするか、トピックに注釈を付けます。
[しおり] メニュー	このメニューを選択し、トピックにすばやく戻るための参照点を設定します。
[オプション] メニュー	このメニューを選択し、オンラインヘルプの外観に関する設定を適用します。
[製品] メニュー	このメニューを選択し、Hyperion Enterprise マニュアルセット内の別のガイドにアクセスします。
[ヘルプ] メニュー	このメニューを選択し、Windows ヘルプのバージョン情報を表示します。

7

トラブルシューティング

この章の内容

よく尋ねられる質問.....	67
エラーメッセージ.....	68

よく尋ねられる質問

オンラインヘルプを印刷するにはどうすればいいですか？

Hyperion Enterprise 製品に付属している Portable Document Format (PDF) ファイルを使用して、オンラインヘルプを印刷できます。ファイルを印刷するには、同じく Hyperion Enterprise 製品に付属している Adobe Acrobat Reader を使用します。

▶ オンラインヘルプを印刷するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- Windows のデスクトップまたは [スタート] メニューで [Acrobat Reader] アイコンをダブルクリックし、Hyperion Solutions のディレクトリから PDF ファイルを開きます。
- Hyperion Enterprise のオンラインヘルプから [ヘルプ] を選択し、次に PDF ファイルを選択します。
- Hyperion Enterprise から [ヘルプ] メニューの [オンラインガイド (PDF)] を選択し、PDF ファイルを選択します。

2 [ファイル] メニューから [印刷] を選択し、印刷するページと部数を選択または入力して、[OK] をクリックします。

注： オンラインヘルプのファイル名および説明を一覧にした表は、『Hyperion Enterprise インストール手順』に記載されています。

なぜ緑色のセルにはデータを入力できないのですか？

データ入力表の緑色のセルは、勘定科目が算出勘定であり、入力勘定ではないことを示しています。算出勘定とは、計算式が関連付けられた勘定科目のことです。

白色のセルは、データ入力を受け入れることができる勘定科目を示しています。セルの色を変更するには、[ファイル] メニューの [設定変更] から [ユーザー] を選択します。システム色について詳しくは、29 ページの「システム色の設定」を参照してください。勘定科目について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

アプリケーションをユーザが使用している間にバックアップできますか？

より正確な回答は次のとおりです。アプリケーションのバックアップ実行中、ユーザは Hyperion Enterprise アプリケーションにログオンしたままでいられますが、アプリケーションのバックアップが完了するまでタスクは何も実行できません。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

重複したエンティティを持つエンティティ一覧を使ってデータを抽出するとどうなりますか？

データが複数回にわたって抽出され、再度読み込まれると無効になります。この問題が起こらないようにするには、連動エンティティ一覧の作成時に、[一覧] タブの [重複エンティティ] オプションの選択を解除します。これにより、重複エンティティが連動エンティティ一覧に追加されなくなります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

HYPENT.INI ファイルの設定にはどのようなものがありますか？

Windows ディレクトリにある HYPENT.INI ファイルのオプションには、アプリケーションのデフォルト設定に関する情報が保存されます。これらの設定には、ユーザ名、アプリケーション ID、ドライバカウント、アプリケーションのデフォルトのパスなどの設定や、色、[Enter] キーの機能、各 Hyperion Enterprise セッションのエラーログの追加または削除などのオプションが含まれます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

エラーメッセージ

次の項では、Hyperion Enterprise の使用中に表示されるエラーメッセージおよびその修正方法について説明します。エラーメッセージは、アルファベット順に示します。

データ種別 [データ種別名] のユーザ [ユーザ名] によってロックされているため、エンティティ [エンティティ名] へのアクセスが拒否されました。

モジュール：データ入力表、データベース、および連結

エラーの解決法：このメッセージは、2人以上のユーザが、同じデータ入力表のデータの視点に対してデータ入力表またはデータベースモジュールでタスクを実行しようとした場合に Hyperion Enterprise の ERROR.LOG に表示されます。このエラーは、別のユーザが読み込み／書き込みのためにこれらのモジュールを開いていることを意味します。また、このエラーは、2人以上のユーザが同じエンティティに対して連結やデータの読み込みを実行しようとした場合にも表示されます。

勘定科目は使用中のため削除できません。

モジュール：勘定科目

エラーの解決法：このメッセージは、勘定科目に転記された仕訳帳がある場合に表示されます。現在、転記済み仕訳帳がないか、データがない場合は、以前にデータのディレクトリを削除してしまったことが考えられます。勘定科目に転記済み仕訳帳があったにもかかわらずデータのディレクトリから物理ファイルを削除してしまった場合、それらの勘定科目のうちいずれかを削除しようとする、勘定科目は「使用中」とみなされます。この問題を解決するには、アプリケーションを再構築する必要があります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

未定義のダイナリンクへの呼び出し

モジュール：Hyperion Retrieve

エラーの解決法：このメッセージは、使用中のオラクル社の Performance Management ソフトウェアのリリースが一致しないことを示します。Microsoft Excel 用の Hyperion Retrieve アドインは最新のものを使用していても、古いバージョンの DLL ファイルがマシンに読み込まれているか、指定したパスに存在する可能性があります。最新の Hyperion Enterprise DLL ファイルの適切なパスが指定されていることを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、古いプログラムファイルをすべて削除してください。

削除できません。除去を続けますか？

モジュール：エンティティ

エラーの解決法：このメッセージは、エンティティに転記済み仕訳帳がある場合に表示されます。現在、転記済み仕訳帳がないか、データがない場合は、以前にデータのディレクトリを削除してしまったことが考えられます。エンティティに転記済み仕訳帳があったにもかかわらず、データのディレクトリから物理ファイルを削除してしまった場合、それらのエンティティのいずれかを削除しようすると、エンティティは「使用中」とみなされます。この問題を解決するには、ア

アプリケーションを再構築する必要があります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

ファイル<エンティティ名>を開くことができません。

モジュール：連結

エラーの解決法：このメッセージは Hyperion Enterprise の ERROR.LOG に表示され、別のユーザが読み込み／書き込みのためにそのファイルを開いていることを意味します。

HPAPP.DAT を開くことができません。

モジュール：Hyperion Retrieve

エンティティ [エンティティ名] がデータ種別 [データ種別名] のユーザ [ユーザ名] によってロックされているため、仕訳帳を転記／再転記できません。

モジュール：仕訳帳

エラーの解決法：このメッセージは、別のユーザが開いているエンティティの仕訳帳を転記または再転記しようとしたときに Hyperion Enterprise の ERROR.LOG に表示されます。

クラスが登録されていません。

モジュール：データ入力表、データベース

エラーの解決法：このエラーは、新しいバージョンの Hyperion Enterprise をインストールするか、ワークステーションのパス変数を変更するか、Hyperion Enterprise プログラムファイルを別のフォルダに移動すると発生します。これらのいずれかの状況の場合、互換性があるバージョンの HELOGENG.DLL ファイルが見つからないか、Microsoft Windows オペレーティングシステムで適切に登録されていません。この問題を解決するには、Hyperion Enterprise プログラムのディレクトリにある HELOGENG.DLL ファイルの場所を見つけ、Microsoft Windows オペレーティングシステムで場所を登録します。

重複入力はできません：勘定科目

モジュール：勘定科目

エラーの解決法：このエラーは、[読込] と [抽出] の両方、または [抽出] のみのオプションを持つ勘定科目変換表に、同じ Hyperion Enterprise 勘定科目を追加

しようとするが発生します。[読込] のマークのみが付いている変換表に、同じ Hyperion Enterprise 勘定科目を複数回追加することはできません。

エラー

モジュール：レポート

エラーの解決法：このメッセージは、レポートのプレビュー時に、選択した期間単位と表示形式の組み合わせが無効な場合に表示されます。例えば、表示形式として期別やデータ種別累計を選択しなければならないときに、月次累計を選択した場合などです。この問題を解決するには、期間単位と表示形式の組み合わせを変更します。

GDI.EXE での一般保護障害

モジュール：レポート

エラーの解決法：このエラーは、HP LaserJet 4 プリンタを使ってプレビューモードで印刷すると発生します。使用している印刷ドライバが正しいことを確認してください。

XXX は無効な Hyperion Enterprise 勘定科目です。

モジュール：勘定科目

エラーの解決法：このメッセージは、サブ勘定科目表が付属する主要勘定科目を勘定科目表から削除した後で、その主要勘定科目を勘定科目変換表に追加しようとした場合に表示されます。まず、その主要勘定科目を勘定科目表に追加してから、新しい変換表に追加する必要があります。

仕訳帳 XXXX に区切り文字のない詳細行があります。

モジュール：仕訳帳

エラーの解決法：このメッセージは、仕訳帳の作成時にエラーログに表示されます。仕訳帳に正しい区切り文字がすべてあることが確認された場合は、仕訳帳の説明が複数行にわたっているのに行継続文字がないという問題が考えられます。行継続文字のアンパサンド記号 (&) が正しく使われていることを確認してください。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』を参照してください。

MACH.DRV エラー

モジュール：パッケージまたはレポート

エラーの解決法：このドライバは、Dell 社製のコンピュータに特有のものです。MACH.DRV の参照を削除し、VGA.DRV ドライバをインストールしてください。これにより、コンピュータの使用可能なメモリが増加するはずですが。

この余白設定では印刷可能領域がほとんどありません。

モジュール：レポート

エラーの解決法：このメッセージは、[ページ設定] で各余白設定が同じ値に設定されているか、互いに近すぎることを示します。[ファイル] メニューから [ページ設定] を選択し、余白設定が重なったり、同じ値にならないように設定を変更してください。

MODAPPDLL パラメータなし：OpenApp エラー

モジュール：システム

エラーの解決法：このメッセージは、指定されたアプリケーションが見つからなかったことを示します。アプリケーションが HYPENT.INI ファイルで定義されているパスにない可能性があります。Windows ディレクトリまたは Windows の起動ディレクトリにある HYPENT.INI ファイル内で、アプリケーション ID がかっこに囲まれて「AppPath=」の行に指定されています。この行に、アプリケーションの常駐パスが指定されていることを確認してください。パスが正しく指定されていない場合、アプリケーションを [アプリケーション] リストから削除し、適切な場所に追加してください。ドライブとディレクトリへの適切なパスを挿入すると、アプリケーションの正しいパスが再設定されます。

調整勘定 XXX は算出勘定にはなり得ません。

モジュール：連結

エラーの解決法：このエラーは連結中に発生します。勘定科目 XXX は、会社間照合調整勘定として設定されたサブ勘定科目表が付属されている、新しい勘定科目である可能性があります。調整勘定を別の勘定科目に変更すると、このメッセージは表示されなくなります。

製品のログインに失敗しました。

モジュール：アドオンモジュール

エラーの解決法：このエラーは、アドオンモジュールのログイン中に発生します。指定されたパスに Hyperion Enterprise ディレクトリがあり、エンティティ、データ種別、計算式、勘定科目などのモジュールを使用していないことを確認してください。このエラーは、無効なユーザ名やパスワードを入力した場合にも発生します。

削除する前に、次のロジックからこのデータ種別をメインリンクとして削除してください。

ロジック：[ロジック名]

モジュール：データ種別

エラーの解決法：カテゴリを参照している特定のロジックがあるカテゴリを削除しようとする、このメッセージが表示されます。カテゴリを削除する前に、ロジックからカテゴリを削除します。

レポートエンジンがシステム POV を読み込めませんでした。

モジュール：レポート

エラーの解決法：このメッセージは、データの視点を設定しないでレポートを開こうとすると表示されます。Hyperion Enterprise でデフォルトのデータの視点を設定してください。これらのデフォルト設定は、Hyperion Enterprise の終了時に保存されます。

行見出しが用紙サイズを超えています。

モジュール：レポート

エラーの解決法：このメッセージは、レポートスクリプトが参照する印刷の向き（横または縦）が、[コントロールパネル] の [プリンタ] の設定と異なる場合に表示されます。これは、[印刷] ダイアログボックスで [ファイルへ出力] を選択した場合にも発生することがあります。

- ▶ この問題を解決するには、次の手順に従います。
- 1 [コントロールパネル] の [プリンタ] を選択します。
- 2 プリンタを選択し、[設定] を選択します。
- 3 印刷の向きが作成中のレポートと一致するように変更します。

ドライブ A で共有違反が発生しました。

モジュール：連結

エラーの解決法：このエラーは、組織内の異なるレベルで、2人以上のユーザが同じデータ種別に対して同時に連結を実行する場合に発生することがあります。例えば、あるユーザが最上位エンティティを連結し、別のユーザが親エンティティを連結している場合などです。

アプリケーションに複数のユーザが存在します。期別替を実行できません。

モジュール：システム

エラーの解決法：このメッセージは、他のユーザがシステムで作業している間に期別替を実行しようとする、と表示されることがあります。システムで作業中のユーザが他にいないのにこのメッセージが表示される場合は、<アプリケーション名>.USE ファイルが存在しないことを示しています。このファイルはアプリケーションのサブディレクトリに存在し、システムの使用を監視します。ファイルが誤っ

て削除されたか、使用中のため新しい場所にコピーされなかった可能性があります。

開いているファイルが多すぎます。

モジュール：Hyperion Retrieve

エラーの解決法：以下の情報は、Microsoft から提供されたものです。このエラーメッセージが表示される場合は、以下の解決法を試してください。

- CONFIG.SYS ファイルの FILES 設定の値を増やします。
- Novell ネットワークを使用している場合は、SHELL.CFG ファイルの FILE HANDLES 設定の値を増やします。
- MS-DOS SHARE プログラムを使用している場合は、ファイルとロックの数を増やします。例えば、SHARE /F:5120 と指定します。

仕訳帳<仕訳帳ラベル>を転記／再転記できません。 <勘定科目>のデータファイルへの書き込みに失敗しました。

モジュール：仕訳帳

エラーの解決法：このメッセージは、仕訳帳を転記または再転記しようとした場合に、エンティティが別のユーザによって保護されているときに表示されます。

アプリケーションを保存できません。

モジュール：アプリケーション

エラーの解決法：このメッセージは、SQL ベースのアプリケーションをアプリケーションのリストに追加しようとするときに表示されることがあります。Hyperion Enterprise の ERROR.LOG ファイルに、「[user:admin] SQL database update errors.Unable to allocate sufficient memory.」というメッセージが表示されます。SQL ディレクトリの W3DBLIB.DLL と WDBNOVDC.DLL というファイルを Hyperion Enterprise のプログラムディレクトリにコピーしてみてください。

データ種別を保存できません。

モジュール：データ種別

エラーの解決法：このメッセージは、データ種別モジュールでデータを保存しようとしたとき、システムの読み込みによってデータ種別を読み込もうとするときに表示されることがあります。作成しようとしている各データ種別名の一部または全部を持つディレクトリが既に存在する可能性があります。ディレクトリをあるアプリケーションから別のアプリケーションにコピーしてから、Hyperion Enterprise 内で新しいデータ種別を同じ名前で作成しようとした場合が考えられます。これらの名前がデータディレクトリに存在しないことを確認してください。

組織を保存できません。

モジュール：エンティティ

エラーの解決法：このメッセージは、ユーザが新しいデータ種別を作成した場合に表示されることがあります。デフォルトでは、そのデータ種別のセキュリティは他のグループに対して「なし」に設定されます。新しいデータ種別のセキュリティを変更し、そのデータ種別へのアクセス権を持つすべてのグループを含めるようにしてください。

Hyperion Enterprise

オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R)は、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion Edition データへのドリルバックをサポートします。

用語集

CHARTDSM 入力ロジック (CHARTDSM chart method) 自動的に生成され、消去、換算、比率、調整後などの連結詳細に対して実行される入力ロジック。

CHART ロジック (CHART method) システムが生成するデフォルトの入力ロジック。システム全体に適用されるステートメントや条件式が含まれている。

DYNVIEWACCTS 入力ロジック (DYNVIEWACCTS chart method) 自動的に生成される入力ロジック。連動表示勘定科目で計算式を入力するために使われる。連動表示勘定科目では、特定の関数しか使用できない。

OK ステータス (OK status) エンティティがすでに連結されており、データが変化していないことを示す連結ステータス。この期間を連結する必要はないが、[すべての連結] または [データのあるものすべての連結] を使用して強制的に連結を実行できる。

PVA 「期別値ロジック (Periodic value method)」を参照。

アクセス権限 (Access rights) ユーザがアプリケーションのタスクを実行できるかどうか、アプリケーション要素にアクセスできるかどうかを決定する設定。

アプリケーション (Application) 財務レポートの要件を満たすために使われる、組織、勘定科目、データ種別、その他の要素の集まり。例えば、月次レポートの要件を満たすアプリケーションや、予算レポートの要件を満たすアプリケーションを設定できる。

アプリケーション基本通貨 (Application currency) 本社のデフォルトのレポート通貨。システムはすべての通貨をアプリケーション基本通貨と関連させて換算する。定義する各アプリケーションに対してアプリケーション基本通貨を選択し、通貨換算のデフォルトを設定する必要がある。「通貨 (Currency)」も参照。

アプリケーション要素レポート (Application Element Report) 指定したセキュリティクラスをどのアプリケーション要素が使用するかを示したセキュリティレポート。

アプリケーション読み込みの最適化 (Application load optimization) アプリケーションに存在する勘定科目、エンティティ、データ種別、レポートの数を指定できるようにする機能。この情報により、システムの読み込みファイルはアプリケーション要素をASCII テキストファイルから読み込むときのパフォーマンスを最適化できる。

一覧 (List) 「勘定科目一覧 (Account list)」、「エンティティ一覧 (Entity list)」を参照。

影響ありステータス (IMPACTED status) エンティティに集計されたデータが変化したことを示す連結ステータス。

エンティティ (Entity) 部門、子会社、工場、地域、製品、またはその他の財務レポート単位を表すことができる組織単位。

エンティティ一覧 (Entity list) レポートやデータ入力表の定義で使用したり、データの抽出などのデータベース機能のために、ユーザがグループ分けしたアプリケーションのエンティティのサブセット。

エンティティ属性 (Entity attribute) エンティティに条件を付ける項目の1つ。通貨、チャートロジック、セキュリティクラス、下位構造、コード、単位などがある。

エンティティの親子関係 (Entity ownership) 組織内の子エンティティと親エンティティとの間の関係を定義する情報。エンティティの親子関係は、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジック、換算ロジックから構成される。

エンティティ変換表 (Entity conversion table) 「変換表 (Conversion table)」を参照。

親エンティティ (Parent entity) 組織の他のエンティティを所有するエンティティ。「エンティティ (Entity)」も参照。

親が未定義のエンティティ (Unowned entity) どの組織にも含まれていないエンティティ。例えば、「CORP」という組織からエンティティ「USWEST」を削除した場合、「USWEST」が他のどの組織にも所属していないと、親が未定義のエンティティになる。親が未定義のエンティティになると、そのエンティティに関連したすべてのデータはシステムで維持される。

親の仕訳帳 (Parent journal) 組織内のノードに転記される仕訳帳入力。

親の調整 (Parent adjustments) 組織内のノードに転記される仕訳帳入力。

下位構造 (Substructure) あるエンティティの下にサブエンティティの集まりを作成できるようにするエンティティ属性。下位構造は、最下位エンティティにのみ割り当てることができる。下位構造の選択は、アプリケーションで以前に定義したすべての下位構造の一覧から行う。

開始期間 (Start period) データ種別のデータの保存を開始する期間。通常、開始期間は会計年度の最初の期間だが、会計年度内の任意の期間を使用できる。また、開始期間はデータ種別の期間単位によっても異なる。

開始年 (Start year) データ種別の最初の期間の年。2年以上のデータを保存するデータ種別の場合、データが開始する年を入力する。開始年は4桁で入力する必要がある。

会社間子表 (Intercompany dependent table) 直接的な子および間接的な子も含め、組織内の任意の親の会社間エンティティをすべて表示する表。この表には、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジックなど、各会社間の子の連結に関する情報が表示される。

会社間サブ勘定科目表 (Intercompany subaccount table) 会社間の残高詳細を保存するために使用する表。会社間サブ勘定科目表には、アプリケーションの会社間エンティティと同じIDを持つ勘定科目が含まれる。

会社間消去 (Intercompany elimination) 勘定科目を照合して、組織の連結済み合計から会社間トランザクションをすべて消去する処理。

会社間照合 (Intercompany matching) アプリケーション内の会社間勘定科目のペアについてその残高を比較する処理通常、会社間売掛金は会社間買掛金に対して照合、つまり比較される。システムはこれらの照合勘定科目を使って、組織の連結済み合計から会社間トランザクションをすべて消去する。「調整勘定 (Plug account)」も参照。

会社間照合グループ (Intercompany matching group) 連結中に照合および消去される勘定科目を指定するために定義する会社間勘定科目のペア。

会社間照合レポート (Intercompany Matching report) 会社間勘定科目のペアの残高を比較し、ペアの残高が一致しているかしていないかを示すレポート。

カスタム関数 (Custom function) 独自の計算式関数を作成できるようにするユーザ定義のマクロ。カスタム関数は、1つまたは複数のロジックで何回も繰り返し使われる論理式がある場合に便利。

換算の詳細 (Translation detail) エンティティの換算結果を保存する連結の詳細のコンポーネント。

換算ロジック (Translation method) データの連結時に通貨換算を実行するロジック。換算ロジックには、連結時にエンティティの通貨を換算する方法を決定する計算式の集まりが含まれる。「ロジック (Method)」も参照。

勘定科目 (Account) アプリケーションの各エンティティやデータ種別の財務データを保存する、勘定科目表の要素。

勘定科目一覧 (Account list) [データ入力]、[データベース]、および[レポート]の各ウィンドウで使用するためにユーザが作成する勘定科目のグループ分け。

勘定科目表 (Chart of accounts) データの読み込みや入力、仕訳帳の調整、データの連結、レポートの作成や実行に使われる勘定科目をすべて含むマスターリスト。Hyperion Enterpriseでは、各アプリケーションにある全組織の全勘定科目を1つの勘定科目表で定義する。勘定科目表には、アプリケーション内の全勘定科目のID、説明、属性が含まれている。

勘定科目変換表 (Account conversion table) 外部勘定科目と、それに対応するHyperion Enterpriseの勘定科目への論理マッピングの一覧。勘定科目変換表では、外部ソースとHyperion Enterpriseとの間に、一対一、一対複数、または複数対一の関係を確認できる。

関数 (Function)

特定の勘定科目の値の検索や特定の計算の実行をシステムに指示するキーワード。例えば、平均関数は、指定された勘定科目の当期の値と前期の値の平均を求めるようにシステムに指示する。

期間 (Period) データ種別内の時間の間隔。

期間およびデータ種別ごとの親子関係 (Ownership by period and category) 「連動組織 (Dynamic organization)」を参照。

期間単位 (Frequency) 日次、週次、月次など、データ種別がデータを追跡する時間の間隔。

期別替 (Rollover) 期別替元データ種別から期別替先データ種別に情報を移動し、期別替元データ種別のデータをクリアするための処理。期別替が実行されると、送り側データ種別と送り先データ種別の開始日が増分される。

期別値ロジック (Periodic value method) (PVA) 期別の換算レート値をある期間を通して適用し、換算結果を算出するための通貨換算の処理。

計算式 (Formula) ロジック内の勘定科目、更新ルール、カスタム関数に割り当てられる関数、演算子、条件式を含む論理式。

計算式関数 (Formula function) 「関数 (Function)」を参照。

経常テンプレート (Recurring template) すべての期間に同一の調整を加えることができる機能。各期間ごとに通常仕訳帳を作成して同一の調整を転記する代わりに、その調整を含む経常テンプレートを1つ作成できる。期間を開くと、システムは経常テンプレートを使って通常仕訳帳を自動的に作成する。この仕訳帳は、直ちに転記することも、編集してから転記することもできる。

結合 (Merge) データ読み込みファイルで指定された勘定科目の既存の値のみをクリアし、それをファイルにある値で置換するデータ読み込みオプション。[置換] オプションとは異なり、[結合] オプションがクリアするのは読み込みファイルで指定された勘定科目の値のみである。「累計 (Accumulate)」、「置換 (Replace)」も参照。

子 (Child) 「子エンティティ (Dependent entity)」を参照。

子エンティティ (Dependent entity) 組織内の他のエンティティに所有されるエンティティ。

固定一覧 (Fixed list) 個別に選択された勘定科目やエンティティを含む静的な一覧。この一覧は、勘定科目やエンティティの追加または削除を手動で行わない限り変化しない。

コメント (計算式内) (Comment (in formulas)) 作成する計算式に関する情報をシステム管理者やユーザに提供する英数字の文字列。

子レート勘定科目 (Child rate accounts) グローバル勘定グループの勘定科目ではないレート勘定科目を使って通貨換算できるようにするオプション。このオプションを選択すると、システムは子の非グローバル勘定科目のレートを使って連結を実行する。

コード (Code) 勘定科目、エンティティ、ロジック、仕訳帳などの要素をアプリケーションでグループ分けするために、これらの要素に割り当てるラベル。コードは、レポート用ツールとして使用したり、エンティティや勘定科目などのアプリケーション要素をエンティティ一覧や勘定科目一覧でフィルタにかけるために使用できる。

最下位エンティティ (Base entity) 他のエンティティを所有しない、組織構造内の最下位にあるエンティティ。

最上位エンティティ (Top entity) 親を持たないエンティティ。各組織には、最上位エンティティと呼ばれる、親を持たない親エンティティが1つある。エンティティはすべて、最上位エンティティに集計される。

最上位仕訳帳 (Top-level journal) 「親の仕訳帳 (Parent journal)」を参照。

最大メッセージ数 (Maximum message count) 最大メッセージ数はメッセージサーバにバッファ可能なメッセージ数である。

サブ勘定科目表 (Subaccount table) アプリケーション内の主要勘定科目に付属できる詳細勘定科目の表。

算出ステータス (CALC status) ロジック内の計算式が変化したことを示す連結ステータス。連結を再度実行して、影響を受けたエンティティの値を計算し直す必要がある。

残高勘定科目 (Balance account) ある特定の時点における未指定値を保存する勘定科目種別。

資産勘定科目 (Asset account) 会社の資産を表した値を保存する勘定科目種別。

支配比率 (Percent control) エンティティが組織内で支配される程度。支配比率を使って、連動組織での連結ロジックの割り当てを決定できる。

収益勘定科目 (Income account) 値が正の場合に純資産を増加させる期別値と累計値を保存する勘定科目種別。

集計 (Roll-up) 「組織 (Organization)」を参照。

消去 (Eliminations) エンティティが会社間消去を保存するために使われることを示すエンティティ属性。

詳細記憶モデル (Detailed storage model) (DSM) 「連結詳細 (Consolidation detail)」を参照。

所有率 (Shares) アプリケーションのエンティティ間の親子関係を示す単位または比率。

仕訳帳 (Journal) 1つのデータ種別および期間の勘定科目の残高に対して加えられる借方/貸方の調整の集まり。仕訳帳は、勘定科目の値の変化を記録し、それらの変化の監査証跡を維持するために使われる。

仕訳帳の番号付け (Journal numbering) 仕訳帳入力に自動的に番号を付ける処理を有効にするオプション。アプリケーションの作成時に [仕訳帳に自動的に番号を付ける] オプションを選択すると、[データ種別] ウィンドウの [仕訳帳の番号付け] オプションを使って、現在のデータ種別で仕訳帳に番号を付ける方法を設定できる。このオプションを使用しない場合は、仕訳帳の ID のみがアプリケーション内の仕訳帳の識別子となる。

自動逆仕訳仕訳帳 (Auto-reversing journal) 次の期間で逆仕訳する調整を入力するために使われる機能。自動逆仕訳仕訳帳は、2つの期間のデータに影響を与える。つまり、まず自動逆仕訳仕訳帳を転記して1つの期間の値を調整する。その次の期間を開くと、システムによってそれらの調整を逆仕訳する仕訳帳が自動的に作成され、転記される。

条件式 (Expression) 条件式は数式の中で使われ、例えば、数字、アプリケーション要素の ID、算術記号、システムにどの値を使うかを指定する関数などがある。関数や他の条件式と区別するために、条件式はかっこ (()) で囲む。

セキュリティ (Security) Hyperion Enterprise のタスクやアプリケーション要素へのアクセスを制御する機能。セキュリティは、データを保護し、権限のないユーザによるデータの表示、アクセス、変更を防ぐために使われる。セキュリティは特定のタスクやアプリケーション要素に適用できる。

セキュリティクラス (Security class) アプリケーションの設計に基づいて、ジョブの機能、部門、基準ごとに分類された、アクセス可能な項目の集まり。ユーザグループは、アプリケーションのセキュリティクラスに対してさまざまなレベルのアクセス権を持つ。個々のユーザもセキュリティクラスに特定のアクセス権を持つことができ、この権限は、所属するユーザグループのアクセス権に優先する。

組織 (Organization) 財務レポート構造を定義するために相互にリンクされたレポート上のエンティティの集まり。

組織単位 (Name) 「エンティティ (Entity)」を参照。

貸借一致仕訳帳 (Balanced journal) 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳帳。貸借一致仕訳帳を転記するには、まず仕訳帳内に借方と貸方を等しく入力する必要がある。

貸借不一致仕訳帳 (Unbalanced journal) 一欄式仕訳帳や貸借不一致仕訳帳の入力をユーザが転記できるようにする機能。UNC。「ユニバーサル命名規則 (Universal naming convention)」を参照。

タスクレポート (Task report) 特定のセキュリティクラスにどのタスクを割り当てるかを決定するために使用するセキュリティレポート。

単位 (Scale) [データ入力] ウィンドウと [データベース] ウィンドウでデータを入力または表示するために使用する単位。

チェック勘定 (Account for lock) 「チェック勘定科目 (Locking account)」を参照。

チェック勘定科目 (Locking account) エンティティを保護できるようにするために、ゼロの値を含む必要がある勘定科目。エンティティを保護する前にその貸借を一致させるために使用する。

置換 (Replace) データ読み込みファイルで指定された期間のすべての勘定科目から既存の値をクリアし、データ読み込みファイルの値を読み込むデータ読み込みオプション。読み込みファイルで勘定科目が指定されていない場合は、指定された期間の勘定科目の値は読み込み中にクリアされる。「累計 (Accumulate)」、「結合 (Merge)」も参照。

抽出 (Extract) アプリケーションのデータを ASCII ファイルに転送できるようにするデータベースモジュールの機能。データを抽出する場合、データ書式を使って、出力先の ASCII ファイル内にデータをどのような書式で挿入するかを Hyperion Enterprise に指定する。

調整 (Adjustment) 「仕訳帳 (Journal)」を参照。

調整勘定 (Plug account) システムが会社間勘定科目のペア間の残高差を保存する勘定科目。

通貨 (Currency) エンティティが使用する貨幣のタイプを表したエンティティ属性。以前にアプリケーションで定義されたすべての通貨の中から、各エンティティの通貨を 1 つ選択する。「アプリケーション基本通貨 (Application currency)」も参照。

通常仕訳帳 (Regular journal) 単一の期間に一度だけ調整を入力するために使用する機能。通常仕訳帳には、貸借一致、エンティティ単位で貸借一致、または貸借不一致のものがある。

定数 (Constant) 負または正の実数。

データ種別 (Category) 予算データ、実績データ、予測データなど、維持できるデータのタイプを区別するカテゴリ。

データ種別属性 (Category attribute) データ種別のデータをシステムがどのように表示、処理、組織化するかを決定する設定。データは、期間と期間単位によって組織化される。データ種別属性を使うと、データ種別内の期間数や、データを保存する 1 年の期間数を設定できる。

データなし (Missing data) データが存在する期間の前後に、データの入力および読み込みが行われなかった期間がある場合、その期間において欠落しているデータ。ある勘定科目が前の期間または将来の期間、あるいはその両方でデータを含んでいるが、現在の期間ではデータを含まない場合に、データなしのステータスが発生する。システムで処理される際、データなしは常にゼロとして扱われる。

データなしステータス (NO DATA status) エンティティまたは勘定科目が 1 つの期間のデータを含んでいないことを示す連結ステータス。

データ入力表 (Schedule) 特定のレポート上のエンティティとデータ種別に対する勘定科目と期間の表。データ入力表を使ってデータの表示と入力ができる。各データ入力表には、1 つまたは 2 つの勘定科目一覧を含めることができる。

データの視点 (Point of view) アプリケーション内の特定のデータポイントを指定するために使用する、Hyperion Enterprise 内の要素の集まり。Hyperion Enterprise のデータの視点の要素には、組織、データ種別、期間、エンティティ、勘定科目がある。

データ表示形式 (Data view) [データベース] ウィンドウと [データ入力] ウィンドウのデフォルトの表示形式を決定するデータ種別設定。期別表示またはデータ種別累計表示のどちらかを指定できる。

入力ロジック (Chart method) アプリケーションでデータを計算するために使用する計算式のグループ。チャートロジックには、デフォルトチャートロジックと特殊チャートロジックの 2 種類がある。デフォルトチャートロジックは、システム全体で使用される一般的な計算式を定義する。特殊チャートロジックは、デフォルトチャートロジックの計算式に対する例外を定義する。「ロジック (Method)」も参照。

ノード (Node) エンティティ対親の関係。

配賦先勘定科目 (Destination account) すべての計算式において、等号の後に指定された計算式の値を含む勘定科目。例えば、次のロジックの行では勘定科目 A (#ACCOUNTA) が配賦先勘定科目になる。
#ACCOUNTA=#ACCOUNTB+#ACCOUNTC

非アクティブステータス (INACTIVE status) このエンティティは現在の期間ではアクティブでないことを示す連結ステータス。このステータスは、データ種別と期間ごとに組織が異なるアプリケーションでのみ表示される。

引数 (Argument) Hyperion Enterprise のアプリケーションとアプリケーション要素 (エンティティやデータ種別など) を計算式内で識別する文字列。引数は計算式の関数の後に続き、コンマ (,) で区切ってかっこ (()) で囲む。引数は、勘定科目の ID などのテキストや、セル参照で構成される。

標準テンプレート (Standard template) 各期間について共通の調整情報を持つ調整を転記するために使用される仕訳帳の機能。毎月、新しい通常仕訳帳を作成する代わりに、共通の勘定科目 ID、エンティティ ID、または値を含む標準テンプレートを作成できる。標準テンプレートは、類似した調整情報を含む通常仕訳帳の基礎として利用できる。

費用勘定科目 (Expense account) 値が正の場合に純資産を減少させる期別値と累計値を保存する勘定科目種別。

負債勘定科目 (Liability account) 会社の負債を表す「ある時点での」値を保存する勘定科目種別。

フロー勘定科目 (Flow account) 期別値と累計値を保存する未指定の勘定科目種別。

変換表 (Conversion table) 総勘定元帳システムなどの他のシステムに属する外部勘定科目または外部エンティティの ID と、それに相当する Hyperion Enterprise の勘定科目またはエンティティの ID を含む一覧。変換表は、データの読み込み時および抽出時に [データベース] ウィンドウで使う。外部 ID と内部の Hyperion Enterprise ID を照合することによって、Hyperion Enterprise との間でデータの読み込みや抽出を行う場合に、そのデータを保存する場所をシステムに指定する。「勘定科目変換表 (Account conversion table)」も参照。

変更ありステータス (CHANGED status) エンティティのデータが変化したことを示す連結ステータス。

保護済みステータス (LOCKED status) 指定期間が保護されているデータがこのエンティティに含まれることを示す連結ステータス。

ポーリング間隔 (Polling interval) ポーリング間隔はメッセージサーバからメッセージを取得するよう要求される時間間隔である。

ユニバーサル命名規則 (Universal naming convention)

(UNC) Hyperion Enterprise の [アプリケーションの追加] ダイアログボックス、[読込] ダイアログボックス、[抽出] ダイアログボックスで使用されるシステム書式のこと。ネットワークサーバとサーバ上の共有ポイントを識別する。UNC のパスでは、ネットワークドライブを表す文字を参照せずにネットワークデバイスへの論理接続が可能。UNC に基づいて付けられた名前は 2 つの円記号で始まり、その後にはサーバ名が続く。

ユーザグループ (User group) 類似したセキュリティ要件を持つユーザのセット。ユーザグループには、セキュリティクラスに関するアクセス権を割り当てる。ユーザグループのメンバには、個々のユーザと他のユーザグループがある。ユーザは少なくとも 1 つのユーザグループに所属する必要がある。

読み込み (Load) ASCII ファイルのデータをアプリケーションに読み込む処理。データを読み込む場合、データ書式を使って、外部システムのデータをどのように解釈するかを Hyperion Enterprise に指示する。

累計 (Accumulate) データ読み込みファイルの値をアプリケーション内の既存の値に追加するデータ読み込みオプション。「結合 (Merge)」、「置換 (Replace)」も参照。

連結 (Consolidation) 子エンティティからデータを収集し、それを親エンティティに集計する処理。子エンティティにデータを入力するか読み込んだ後、連結を実行してそのデータを組織内で集計する。データの連結では、連結ロジックと換算ロジックを使ってデータが計算される。

連結詳細 (Consolidation detail) 子エンティティのデータを親エンティティに連結した結果生じる値。換算、比率、消去、親の調整、調整後の詳細がある。この詳細を保存すると、それぞれの子の詳細監査証跡が個別に提供される。「親の仕訳帳 (Parent journal)」、「親の調整 (Parent adjustments)」、「換算の詳細 (Translation detail)」も参照。

連結比率 (Percent consolidation) 親に連結されるエンティティの値の比率。

連結ロジック (Consolidation method) 連結中に子のデータが親エンティティに集計されるときに実行される計算式から成るロジック。連結ロジックは、蓄積、消去、再分類などの処理を定義するために使われる。システムによってデフォルトの連結ロジック CONSOL が生成され、これによって連結の計算式を入力できるようになる。

連動一覧 (Dynamic list) 内容がフィルタ基準の集まりによって決定される勘定科目一覧またはエンティティ一覧。勘定科目とエンティティの属性が変化すると、連動一覧の内容も変化する。

連動組織 (Dynamic organization) アプリケーションの各データ種別と期間に対してユーザが一意的組織構造を作成できるようにするアプリケーションの設定オプション。

連動表示勘定科目 (Dynamic view account) 現在の表示形式と期間単位に基づいて計算される勘定科目。連動表示勘定科目は、入力ロジック内で比率を算出するために使われ、常にアプリケーションのすべてのデータ種別に適用される。

ロジック (Method) アプリケーションでデータを計算するために使われる計算式のグループ。ロジックの定義では、ロジックの設計、作成、エラーチェックを行う。ロジックの作成、チェック、編集には、[ロジック] ウィンドウを使用する。ロジックはエンティティに割り当てられる。「**換算ロジック (Translation method)**」も参照。

索引

A - Z

Allocations

「Hyperion Allocations」を参照, 14

Hyperion Allocations, 14

Hyperion Enterprise

アプリケーション, 8

印刷, 35

エンティティ一覧, 12

オンラインヘルプシステム, 64

勘定科目一覧, 12

起動, 37

機能, 7

コード, 13

終了, 38

製品セット, 13

セキュリティ, 13

組織, 10

データ入力, 9

データの計算, 11

データの読み込み, 9

プレビュー, 35

連結, 11

連結詳細, 11

Hyperion Enterprise Web。「Web, Hyperion Enterprise」を参照

Hyperion Enterprise デスクトップ

概要, 17

機能, 20

Hyperion Enterprise の起動, 37

Hyperion Enterprise の終了, 38

Hyperion Retrieve, 15

LedgerLink, 15

POV

Hyperion Enterprise Web, 57

Retrieve, 15

Web

アプリケーション, 変更, 61

セッションタイムアウト, 59

モジュール, 58

Web, Hyperion Enterprise

POV, 57

アプリケーション, 変更, 61

使用, 55, 62

タイムアウト, 59

[ホーム] ページ, 55

モジュール, 58

ログオフ, 60

ログオン, 60

あ行

アイコン

ツールバーでの表示, 41

アプリケーション

Hyperion Enterprise Web からのログオフ, 60

Hyperion Enterprise Web へのログオン, 60

アクセス, 45

管理, 45

追加, 46

開く, 46

要素のコピー, 48

要素の削除, 48

要素の変更, 47

要素を開く, 47

ラベルの除去, 47

アプリケーションモジュール, 58

アプリケーション要素

Table.bodys からの削除, 54

概要, 43

コピー, 48

削除, 48

表内の変更, 54

表の本体部分への追加, 54

開く, 47

変更, 47

一覧

「勘定科目一覧」または「エンティティ一覧」を参照, 12

印刷ツールバーアイコン, 20

印刷プレビューツールバーアイコン, 20

[ウィンドウ] メニュー, 43

エンティティ一覧, 12

エンティティの詳細

非表示, 51

表示, 51

[オプション] メニュー, 42

オンラインヘルプシステム, 64

か行

勘定科目一覧, 12

勘定科目の詳細

非表示, 51

表示, 51

期間単位ツールバーアイコン, 20

キーボードショートカット, 50

[検索] メニュー, 41

[コントロール] メニュー, 39

コード, 13

さ行

参照のみアイコン, 22

システム

起動, 37

終了, 38

メニュー, 38

モジュール, 19, 58

詳細

エンティティについて非表示, 51

エンティティについて表示, 51

勘定科目について非表示, 51

勘定科目について表示, 51

組織単位について非表示, 51

ステータスバー

概要, 22

セッションタイムアウト, 59

セルブロック, 50

[選択] メニュー, 41

組織単位の詳細

非表示, 51

た行

タイムアウト, Web, 59

[タスク] メニュー, 42

単位ツールバーアイコン, 20

ツールバー

アイコン, 41

概要, 20

非表示, 23

表示, 23

ツールモジュール, 58

デスクトップ

カスタマイズ, 24

概要, 17

機能, 20

システムモジュールへのアクセス, 19, 58

デフォルトのプリンタ, 35

デフォルトのページ書式, 33

デフォルトのページ設定, 34

デフォルトのラベル設定, 34

データ

アクセス, 26

データの視点バー

カスタマイズ, 25

概要, 25

非表示, 23

表示, 23

データモジュール, 58

な行

[ナビゲート] メニュー, 42

は行

表

アプリケーション要素の削除, 54

アプリケーション要素の追加, 54

アプリケーション要素の変更, 54

スクロール, 50

表示のみアイコン, 22

[表示] メニュー, 41

[ファイル] メニュー, 39

[ファイル] メニューの [デスクトップ], 40

プリンタ

変更, 35

ヘルプ

メニュー, 43

[編集] メニュー, 41

保護アイコン, 22

保存ツールバーアイコン, 20

[ホーム] ページ, Hyperion Enterprise Web, 55

ま行

メニュー

ウィンドウ, 43

オプション, 42

概要, 38

検索, 41

コントロール, 39

選択, 41

タスク, 42

ナビゲート, 42

表示, 41

ファイル, 39

[ファイル] メニューの [デスクトップ] ,
40

ヘルプ, 43

編集, 41

モジュール

アクセス, 43

システム, 19, 58

ら行

ラベル, 47

列幅, 53

ログオフ

Hyperion Enterprise Web, 60

ログオン, 37

Hyperion Enterprise Web, 60

ログモジュール, 58

